

令和2年度 第3回

# 社会教育委員の会議

- 日 時 令和3年3月24日（水）  
午後2時00分～
- 会 場 人材かがやきセンター研修室  
（中央生涯学習センター5階）

宇都宮市教育委員会

# 会 議 次 第

## 1 開 会

## 2 議 事

### (1) 報告事項

- ① 令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する施策事業の実績評価について 【資料1】
- ② 令和3年宇都宮市成人式の延期について 【資料2】

### (2) 協議事項

- ① 令和3年度 社会教育関係団体に対する補助について 【資料3】
- ② 令和3年度 社会教育行政の基本方針及び重点施策について 【資料4】
- ③ 令和3年度 文化行政の基本方針及び重点施策について 【資料5】
- ④ 「社会の要請」への対応に関する提言について 【資料6】

## 3 そ の 他

- ① 令和2年度 生涯学習事業の実施状況について 【資料7】
- ② 令和3年度宇都宮市立小・中学校の「土曜授業」の実施予定日について 【資料8】

## 4 閉 会

# 宇都宮市社会教育委員名簿

任期：令和元年7月1日～令和3年6月30日

区分	No.	氏名	役職名等	備考
学校教育 関係者	1	菅野 光広 <small>すがの みつひろ</small>	宇都宮工業高等学校長(栃木県高等学校長会 宇都宮支部)	
	2	鈴木 克伸 <small>すずき かつのぶ</small>	横川中学校長(宇都宮市中学校長会)	
	3	鈴木 恵治 <small>すずき けいじ</small>	昭和小学校長(宇都宮市小学校長会)	
	4	今井 政範 <small>いまい まさのり</small>	宇都宮地区幼稚園連合会会長(宇都宮地区幼 稚園連合会)	
社会教育 関係者	5	新妻 克隆 <small>にいづま としかか</small>	公益社団法人宇都宮青年会議所直前理事長	
	6	小林 純枝 <small>こばやし すみえ</small>	宇都宮市体育協会副会長	
	7	松本 弘元 <small>まつもと こうげん</small>	宇都宮市文化協会常任理事	
	8	石塚 勝 <small>いしづか まさる</small>	宇都宮市子ども会連合会会長	
	9	福田 治久 <small>ふくだ ほんひさ</small>	宇都宮市PTA連合会会長	
	10	大森 幹夫 <small>おおもり ますお</small>	宇都宮市地域まちづくり協議会副会長	
	11	小林 剛 <small>こばやし つよし</small>	宇都宮市青少年指導員会会長	
	12	深津 佐由美 <small>ふかつ きゆみ</small>	若松原中学校地域協議会地域コーディネー ター	
	13	熊倉 悦子 <small>くまくら えつこ</small>	新田小放課後子ども教室コーディネーター	
家庭教育 関係者	14	小池 操子 <small>こいけ みさこ</small>	宇都宮市家庭教育支援活動者	
学識 経験者	15	河田 隆 <small>かわた たかし</small>	宇都宮共和大学教授	委員長
	16	佐々木 一隆 <small>ささき かずたか</small>	宇都宮大学教授	
	17	若園 雄志郎 <small>わかぞの ゆうしろう</small>	宇都宮大学准教授	
	18	増渕 幸男 <small>ますぶち ゆきお</small>	上智大学名誉教授	
	19	内藤 良弘 <small>ないとう よしひろ</small>	市議会議員	副委員長
	20	今井 恭男 <small>いまい やすお</small>	市議会議員	



## 令和元年度「宇都宮市読書活動推進計画」に関する施策事業の実績評価について

## 1 計画の位置づけ等

本計画は、本市における人づくりの指針である「宮っこ未来ビジョン」や、上位計画である「第3次宇都宮市地域教育推進計画」に基づき人づくりを進める中で、特に読書推進に焦点を当てた事業実施計画である。

計画期間：平成30年度から令和4年度までの5か年計画

**参考資料1** 「第2次宇都宮市読書活動推進計画」（概要版）

## 2 計画の進行管理について

本計画の各施策・事業について、その取組実績を定量的に把握し、評価を行うとともに、教育委員会の附属機関である「社会教育委員の会議」や「参考人」に報告、意見を聴取し、効果的な推進を図るものとする。

**参考資料2** 令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

## (1) 進行管理の実施手法

本計画の着実な推進を図るため、基本目標について各種実態調査の結果等から評価を行う。

また、計画に位置付ける事業のうち、各施策を代表する基幹的な事業や、基本目標の達成に向け特に効果が高いと考えられる事業を「重点事業」として位置づけ、進捗の確認をするとともに評価を行う。

## (2) 評価の実施年度

各年度の目標値に対する実績を踏まえ、毎年度評価を行う。


### 3 令和元年度の実績評価について

#### (1) 基本目標 I と重点事業について

**基本目標 I** 市民一人ひとりが個に応じた多様な読書活動に親しんでいます。

##### ア 基本指標の達成率

(基本指標 i : ) 最近 1 年間で読書 (紙の本・電子書籍) をしている人の割合



平成 28 年度		平成 30 年度	令和元年度	令和 4 年度 (目標値)
81.9%		—	—	83%

「市民意識調査」より

※市民意識調査は計画策定時に実施のため令和元年度の実績はありません。

#### イ 重点事業の進捗状況 10事業(うち重点事業2)

##### 《重点事業》

		平成28年度		平成30年度 (達成率)	令和元年度 (達成率)	令和4年度 (目標値)
<b>事業番号 5</b> <b>【新規】</b> アウトリーチサービスの推進	目標値 (実施回数)	—		3回/年	6回/年	15回/年
	実績値 (実施回数)	新規事業		5回/年 (166.7%)	5回/年 <b>(83.3%)</b>	—
<b>事業番号 7</b> <b>【拡充】</b> ICT技術を活用した読書活動の推進	目標値 (図書館ホームページアクセス数)	—		920,000 件	940,000 件	1,000,000 件
	実績値 (図書館ホームページアクセス数)	900,000 件		731,570 件 (79.5%)	716,581 件 <b>(76.2%)</b>	—

「宇都宮市立図書館利用統計」より

⇒ ・アウトリーチサービスは概ね順調に実施できている。

・図書館ホームページアクセス数は横ばいである。

##### 【基本目標 I の評価】

(施策 2) 「読書機会の少ない人々に向けたサービスの充実」の重点事業である (事業番号 5) 「アウトリーチサービスの推進」は、来館が困難な高齢者や読書機会の少ない子ども等が利用しやすい場所に出向き、資料の貸出、図書に関する情報提供、おはなし会等を実施するサービスで、令和元年度においては、訪問先は増加したものの、新型コロナウイルス感染拡大防止のため 2 月以降の訪問を中止した影響により、実施回数は横ばいとなった。今後の感染状況や「新しい生活様式」を踏まえた適切な実施手法等を検討しながら、引き続き着実な実施に取り組んでいく。

また、(施策 3) 「ICT を活用したサービスの充実」の重点事業である (事業番号 7) 「ICT 技術を活用した読書活動の推進」の目標値「図書館ホームページアクセス数」は、横ばいであることから、デジタルアーカイブ事業の充実などより一層推進する必要がある。

(2) 基本目標Ⅱと重点事業について

**基本目標Ⅱ** すべての宮っ子が読書活動を楽しんでいます。

ア 基本指標の達成率

(基本指標 ii : ) 児童書の貸出冊数

平成28年度		平成30年度	令和元年度	令和4年度 (目標値)
1,560,000冊		1,531,787冊	1,485,624冊	1,565,000冊

「宇都宮市立図書館利用統計」より

・児童書の貸出冊数は、わずかに減少したが、これは新型コロナウイルス感染防止対策のため3週間臨時休館した影響である。

(基本指標 iii : ) 高校生の1か月の読書量

平成28年度		平成30年度	令和元年度	令和4年度 (目標値)
1.47冊		1.67冊	1.63冊	1.6冊

「子どもの読書活動に関する実態調査」より

・高校生の1か月の読書量は、目標値を達成している。

イ 重点事業の進捗状況 12事業(うち重点事業4)

《重点事業》

		H28年度		H30年度 (達成率)	R元年度 (達成率)	R4年度 目標値
<b>事業番号11</b> 【拡充】 「うちでもどこでも読み聞かせ」事業の実施	目標値 (事業実施回数)	—		3回/年	5回/年	10回/年
	実績値 (事業実施回数)	2回		5回/年 (166.7%)	5回/年 (100%)	—
<b>事業番号15</b> 【新規】 はじめてえほん事業の実施	目標値 (講座開催回数)	—		3回/年	6回/年	16回/年
	実績値 (講座開催回数)	新規事業		3回/年 (100%)	6回/年 (100%)	—
<b>事業番号18</b> 【拡充】 授業に役立つ資料・情報提供の充実	目標値 (学校希望図書利用件数)	—		1,650件	1,700件	1,800件
	実績値 (学校希望図書利用件数)	1,600件		1,456件 (88.2%)	1,373件 (80.7%)	—
<b>事業番号22</b> 【拡充】 高校生の本や読書に関する情報交換・発信事業の推進	目標値 (高校生対象の情報発信回数)	—		5回/年	11回/年	30回/年
	実績値 (高校生対象の情報発信回数)	1回/年		2回/年 (40.0%)	13回/年 (118.2%)	—

「宇都宮市立図書館利用統計」より

⇒・ウチでもどこでも読み聞かせ事業は順調に実施している。

・はじめて絵本事業は順調に実施している。

・学校希望図書利用件数はやや減少している。

・高校生対象の情報発信回数は増加し、目標値を達成した。

#### 【基本目標Ⅱの評価】

(施策5)「子どもの読書習慣を育む機会の充実」の重点事業である(事業番号11)「ウチでもどこでも読み聞かせ事業の実施」は、家庭での読書習慣を育むための読み聞かせや絵本の紹介などの出前講座であり、幼稚園や子育てサロン、子育てサークル等に働きかけを行うことにより、順調に実施できている。今後は、適切な新型コロナウイルス感染予防対策をとりながら、関係機関との連携を維持し、事業を実施していく。

(施策6)「乳幼児の子どもへの読書活動への推進」の重点事業である(事業番号15)「はじめてえほん事業の実施」は、子どもが継続的に本に親しむきっかけづくりのためのおはなし会と、おはなし会を運営するボランティア育成のための読み聞かせ講座を実施する新規事業であり、研修会等を通じてボランティアの育成・支援を行うことにより、実施回数を増やすことができた。今後は、適切な新型コロナウイルス感染予防対策をとるとともに、ボランティアの育成・支援を継続し、事業の拡充に努めていく。

(施策7)「小中学校との連携・支援の充実」の重点事業である(事業番号18)「授業に役立つ資料・情報提供の充実」は、小中学校への授業や読書活動を支援するため学校の要望に応じた資料を図書館司書が選定して提供しているが、地域学校園の取り組みとして学校間での貸借に必要な資料を集めたり、新型コロナウイルス感染防止対策のために小中学校が休校になったことにより、学校希望図書の利用件数はやや減少している。今後も利用促進を図るため、サービスの周知等に努めていく。


(施策8)「中高生が参加できる事業の推進」の重点事業である(事業番号22)「高校生の本や読書に関する情報交換・発信事業の推進」では、高校生が編集委員として作成する「MIYATEEN」が10周年を迎え、企画展示の実施や、新たに図書館の検索・予約端末機のデジタルサイネージ機能を活用したおすすめ本の情報発信などに取り組んだ。また、県の読書コンシェルジュと連携した特集コーナー設置も実施した。今後も、「MIYATEEN」編集委員等の人材を活用しながら、様々な機会を捉え情報発信を行っていく。

#### (3)基本目標Ⅲと重点事業について

**基本目標Ⅲ** 個人の問題や社会が抱える課題を解決するために図書館資源を活用しています。

##### ア 基本指標の達成率

(基本指標iv:) レファレンスサービスにおける利用者満足度

平成28年度		平成30年度	令和元年度	令和4年度 (目標値)
60.3%		65.4%	67.6%	65%

「図書館利用者アンケート」より

・レファレンスサービス利用者の満足度は高まってきており目標値を達成している。

(レファレンスサービス:資料・情報を求める利用者に対して、文献の紹介・提供などを援助す



るサービスのこと)

イ 重点事業の進捗状況 11事業(うち重点事業2)

《重点事業》

		H28年度		H30年度 (達成率)	R元年度 (達成率)	R4年度 目標値
事業番号23 【新規】 みや学講座の 開催	目標値 (講座開催数)	—		2回	4回	10回
	実績値 (講座開催数)	新規事業		3回 (150.0%)	4回 (100.0%)	—
事業番号26 【拡充】 行政支援サー ビスの推進	目標値 (貸出冊数)	—		1,760冊	1,820冊	2,000冊
	実績値 (貸出冊数)	1,700冊		2,576冊 (146.4%)	2,407冊 (132.3%)	—

「宇都宮市立図書館利用統計」より

⇒・みや学講座の開催は順調に実施できている。

・行政支援サービスの貸出冊数は目標値を上回っているが、前年度より減少している。

【基本目標Ⅲの評価】

(施策9)の「地域情報の収集・提供」の重点事業である(事業番号23)「みや学講座の開催」については、宇都宮の戊辰戦争や宇都宮南部地域における古代の信仰遺跡をテーマとした講座を開催するなど順調に実施できている。今後も郷土愛を育み、宇都宮の知識を深めるための講座を充実していく。

(施策10)の「各図書館の特色を活かした事業の推進」の重点事業である(事業番号26)「行政支援サービスの推進」については、市職員がより良い行政サービスを遂行するための、求めに応じた資料・情報の調査・提供を行うもので、講座の関連図書のリスト作成や図書提供依頼が減ったため、前年度に比較して貸出冊数が減少した。目標値は上回っているものの、今後も関係各課等と連携を図りながら事業を実施していく。

(4)基本目標Ⅳと重点事業について

基本目標Ⅳ 読書活動を介して人と人が交流しています。

ア 基本指標の達成率

(基本指標v:) 読書推進事業の参加人数


平成28年度		平成30年度	令和元年度	令和4年度 (目標値)
24,000人		25,745人	24,420人	25,000人

「図書館概要」より

・読書活動に参加している人は、わずかに減少したが、新型コロナウイルス感染防止対策により講座・イベントが実施されなかったためである。

イ 重点事業の進捗状況 4事業(うち重点事業1)

《重点事業》

		H28年度		H30年度 (達成率)	R元年度 (達成率)	R4年度 目標値
事業番号34 【拡充】 世代を超えた 交流の場の創 出	目標値 (講座・イベ ントの開催数)	—		19回	<b>20回</b>	23回/年
	実績値 (講座・イベ ントの開催数)	18回/ 年		13回 (68.4%)	<b>14回 (70.0%)</b>	—

「宇都宮市立図書館利用統計」より

⇒ 世代を超えた交流の場としての講座・イベントの開催数は目標を達成できていない。

【基本目標Ⅳの評価】

(施策12)「人と人をつなぐ場や機会の提供の充実」の重点事業である(事業番号34)「世代を超えた場の創出」については地域等と連携したイベントや大学生等が講師となって図書館資源を活用した子ども向け講座を実施しているが、目標値には達していないことから、今後も高校や大学等に積極的に働きかけ、連携して講座を実施していく必要がある。

## I 計画について

## 〈計画策定の趣旨〉

本市においては、平成25年6月に策定した「宇都宮市読書活動推進計画」に基づき、子どもを含む市民の読書活動を推進してきたが、社会情勢の著しい変化への対応や、近年、読書活動の拠点である図書館には、社会の変化に対応した学習機会の提供や地域コミュニティの維持・活性化への貢献といった役割が求められていることから、現行計画を改定し、第2次計画を策定する。

## 〈計画の位置づけ〉

「宇都宮市地域教育推進計画」に基づき人づくりを進める中で、市民の読書活動の推進に焦点を当てた個別計画であり、上位計画である「宮っこ未来ビジョン」や「宇都宮市地域教育推進計画」など関連する計画等との整合を図る。

## 〈計画の期間〉

平成30年度（2018年4月）～34年度（2023年3月）までの5年間

## II 本市の読書活動推進の現状と課題

## 1 (1) 読書活動を取り巻く状況（社会情勢の変化）

- ・少子化、超高齢化の進行による人口減少、個人の関心やライフスタイルの多様化・複雑化、経済的格差の広がり
- ・地域コミュニティの衰退とつながりの希薄化、情報通信技術（ICT）の進展に伴う資料の電子化等の技術活用
- ・グローバル化の進展（英語の教科化）、地域への関心や郷土愛の高まり、地域資料などの散逸、劣化の進行
- ・市内の書籍小売業事業所数の減少、書籍、雑誌の出版点数の減少、一世帯当たりの書籍・雑誌購入費用の減少
- ・読書率（普段本を読む人）の減少と不読率の上昇

## 1 (2) 読書活動を取り巻く状況（国・県の動向）

【国】中教審答申「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」（平成28年5月30日）

・個人や社会のニーズに応じた学習機会が提供され、個人が自己の責任と判断で課題解決に取り組むとともに、地域社会が住民の力を総合して地域の課題を解決することが求められている。

【国】文部科学省「人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて（論点の整理）」図書館等について（平成29年3月28日）

・「地域課題解決学習」の推進による地域コミュニティの維持・活性化への貢献、社会的包摂への寄与、社会の変化に対応した学習機会の提供の役割が求められる。

・今後、他館との相互資料貸借の充実や企業等と連携した地域課題解決に資する講座の開設などにより、より実践的な知的サービスが提供されることが期待される。

・来館者へのサービスに加えて、アウトリーチ活動を充実させることにより、高齢者や障害者、困難を抱える人々等にも読書の機会を提供し、社会的包摂の観点から地域のニーズに積極的・能動的に答えていくことが期待される。

・近年、社会問題となっている子供の貧困は、子供の読書体験にも影響を与えることが懸念され、困難を抱えた親子に対して読書の機会を提供していくことも重要な課題。

【県】栃木県教育委員会「子どもの読書活動に関する実態調査結果」（平成29年1月）

・1か月に本を読まない生徒の割合（不読率）が高校生39.9%。となっており、その理由として「携帯電話やスマートフォンでのやりとりに時間を使う」という回答が最多。

【他】独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」（平成25年2月）

・成人のうち、子どもの頃の読書量が多いほど読書が好きである割合が高く、1か月に読む本の冊数や1日の読書量も多い。  
・成人のうち、子どもの頃の読書活動が豊富であるほど、読み聞かせ等読書を通した子どもとの関わりの機会が多い。

## 2 これまでの取組の成果と課題

◎基本目標1 多様な図書館サービスを利用するなど、あらゆる市民が読書活動に親しんでいます。

○基本指標1：図書館資料の貸出冊数 4,566,016点（H23）⇒4,222,216点（H28）

○基本指標2：図書館の登録率 33.1%（H23）⇒32.2%（H28）

◎基本目標2 図書館、地域、学校の連携のもと、宮っ子が読書活動や学習活動に励んでいます。

○基本指標3：高校生の1ヶ月の読書量 1.4冊（H23）⇒1.47冊（H28）

○基本指標4：子どもの読書に関わるボランティアの活動人数 1,236人（H23）⇒1,204人（H28）

◎基本目標3 個人や団体、地域がそれぞれの課題を解決するために、図書館サービスを利用しています。

○基本指標5：レファレンスに対する利用者満足度 52.6%（H23）⇒60.3%（H28）

◎基本目標4 市民が高度情報化に対応した資料・設備を利用し、ニーズに応じたデジタル情報を活用しています。

○基本指標6：図書館のインターネット端末の利用件数 21,305件（H23）⇒38,041件（H28）

◎基本目標5 図書館の適切な環境整備と運営により、市民が快適に図書館を利用しています。

○基本指標7：図書館の読書環境に関する利用者満足度 82.0%（H23）⇒79.2%（H28）

## 3 市民の読書活動の状況

○生涯学習課「市民意識調査」（平成28年11月）

- ・最近1年間の市民の読書媒体 ⇒ 紙の本66.5%、電子図書のみ1.8%、紙の本と電子書籍13.6%、読まない15.1%
- ・最近1年間の図書館の利用 ⇒ 「かつて（1年以上前に）利用したことがある」19.9%、「これまで利用したことがない」39.7%
- ・図書館の利用目的 ⇒ 「調べものをするため」38.6%（「資料の貸出返却」、「資料の閲覧」について多い）

○学校教育課「読書アンケート」（市は平成28年11月、全国は5月）

・1人あたりの1か月の読書量 小学生：本市29.7冊、全国：11.4冊／中学生：本市12.6冊、全国：4.2冊

○図書館「利用者アンケート」（平成28年10月）

- ・来館の目的 ⇒ 「本を無料で利用する」について、「調べものをする」、「仕事や生活に必要な情報を得る」が多い。
- ・図書館サービスの認知度（資料相談・レファレンス） ⇒ 使ったことがない19.1%、知らない4.9%
- ・図書館が目指すべき方向 ⇒ 「本を増やす」について、「子どもの読書活動支援をより一層充実する」が多い。

○宇都宮読書推進ガイドブック「HON-miya」に関するアンケート（平成28年9月）

・市立図書館を利用したことがない高校1年生の割合 ⇒52.0%

○図書館「年齢別利用人数統計」に基づく各世代の人口増減に対する利用者増減の割合（平成25年度と平成28年度の比較）

・平成25年度と平成28年度比較では、人口の全世代が0.9%微増する中、利用者数は全世代で4.6%減少  
利用者数の減少幅の大きい年代は、23歳～29歳が22.3%減、30歳～39歳が21.2%減、人口も他の年代と比較し減り幅が大きい。  
一方、60歳以上の利用者においては、人口と同様増加傾向にある。

○図書館「親子読書アンケート」（平成29年9月）

- ・子どもに読み聞かせをしていますか ⇒ 「はい」85.0%
- ・読み聞かせによって子どもに見られる変化 ⇒ 「絵や文字に興味を持つ」22.5%、「好きな絵本をひとりで読む」20.1%

## 4 今後の読書活動推進に向けた課題

## (1) 多様なニーズを捉えた読書活動の推進が必要。

■すべての市民が読書活動に親しむことができる読書環境の整備が必要。

- ・本を読まないあるいは読書活動の拠点である図書館を利用したことがない市民への働きかけが必要。
- ・読書意欲の高い市民に対し、多様化するニーズを捉えた読書環境を整えることが必要。
- ・日常的に読書活動に親しむため、図書館の利用促進が必要。
- ・高齢者や障害者、困難を抱える人々に対して読書の機会提供が求められている。
- ・ICTの進展に伴い、電子図書の活用等について検討を進めることが必要。
- ・施設設備に関する計画的な改修等が必要。

## (2) すべての子どもが読書に親しめる機会の提供が必要。

■子どもが継続的に読書に親しむため、家庭へのはたらきかけや子どもの読書に関わる人材の確保が必要。

- ・乳幼児期の読書経験がその後の読書活動に影響を及ぼすことから、本に親しむ機会の提供が必要。
- ・図書館資源等を活用した読書機会の格差解消に資する取組みの検討が求められている。
- ・子どもの読書活動を支援するボランティアの後継者が不足しているため、読書環境に携わる人材のより一層の育成および確保が必要。
- ・小学校での英語の教科化に伴い、子どもが英語に親しめる読書環境の充実が必要。

## (3) 課題解決支援の更なる強化が必要。

■著しく変化する社会環境に対応するため、学びの場の提供や課題を解決するための支援が必要。

- ・生涯学習の場として、関係機関等と連携し市民のニーズや今日的課題に対応した講座の開設、積極的な地域課題解決への貢献が求められている。
- ・地域資料等の貴重な資料のデジタル保存と継承などニーズに応じたデジタル情報の環境整備と活用促進が必要。
- ・図書館資源を有効かつ最大限活用し、様々な課題解決支援に対応するため、職員のスキルアップと、レファレンスサービスのPRが必要。

## (4) 本を通して人と人がつながるしくみづくりが必要。

■本と人をつなぐだけでなく、図書館資源を生かして人と人がつながる交流の場をコーディネートする役割が図書館に求められている。

- ・本を通し人が集い交流する場の提供が必要。
- ・読書関係団体や企業等との連携による図書館資源のさらなる活用や読書活動を支援する人材の育成が必要。

### Ⅲ 基本的な考え方

#### 基本理念

市民が生涯にわたり読書活動に親しむため、社会の変化に対応した多様な読書機会を提供するとともに、人と人がつながる読書活動を推進します。

#### 〈基本目標Ⅰ〉

市民一人ひとりが個に応じた多様な読書活動に親しんでいます。

#### 基本指標 i

最近1年間で読書（紙の本・電子書籍）をしている人の割合  
81.9%（H28年度）⇒83%（H34（2022）年度）  
市民意識調査

#### 〈基本目標Ⅱ〉

すべての宮っ子が読書活動を楽しんでいます。

#### 基本指標 ii

児童書の貸出冊数  
1,560,000冊（H28年度）  
⇒1,565,000冊（H34（2022）年度）  
図書館利用統計

#### 基本指標 iii

高校生の1か月の読書量  
1.47冊（H28年度）⇒1.6冊（H34（2022）年度）  
子どもの読書活動に関する実態調査

#### 〈基本目標Ⅲ〉

個人の問題や社会が抱える課題を解決するために図書館資源を活用しています。

#### 基本指標 iv

レファレンスサービスに対する利用者満足度  
60.3%（H28年度）⇒65%（H34（2022）年度）  
図書館利用者アンケート

#### 〈基本目標Ⅳ〉

読書活動を介して人と人が交流しています。

#### 基本指標 v

読書推進事業の参加人数  
24,000人（H28年度）⇒25,000人（H34（2022）年度）  
図書館概要

### Ⅳ 施策の展開

施策	事業・取組等（■新規）	主な指標〈現状→H34（2022）年度目標〉
施策1 さまざまな市民に向けた読書活動の推進	■ ①「よるとしよ」事業の実施 ■ ②転入者向け図書館PR事業の実施 ③読書活動の啓発事業の実施 ④センター図書室等の地域性や利用者層に合ったサービスの提供	●アウトリーチサービスの実施回数 〈0回/年→15回/年〉 ●図書館HPアクセス件数 〈900,000件→1,000,000件〉
施策2 読書機会の少ない人々に向けたサービスの充実	■ <b>重</b> ⑤アウトリーチサービスの推進 ⑥障がい者向けサービスの充実	
施策3 ICTを活用したサービスの充実	<b>重</b> ⑦ICT技術を活用した読書活動の推進 ⑧地域資料のデジタルアーカイブ化の推進と資料の公開	
施策4 読書環境の整備	⑨読書意欲を高めるサービスの提供 ⑩図書館施設の改修・機能向上事業の推進	
施策5 子どもの読書習慣を育む機会の充実	<b>重</b> ⑪「うちでもどこでも読み聞かせ」事業の実施 ■ ⑫アウトリーチサービスの推進【再掲】 ⑬「うつつのみやこども賞」事業の実施 ⑭読書活動を支援するボランティアの育成・強化	●うちでもどこでも読み聞かせ事業の実施回数 〈2回/年→10回/年〉 ●アウトリーチサービスの実施回数 〈0回/年→15回/年〉 ●はじめてえほん事業の実施回数 〈0回/年→16回/年〉 ●学校希望図書利用件数 〈1,600件→1,800件〉 ●高校生対象の情報発信回数 〈1回→30回〉
施策6 乳幼児期の子どもへの読書活動の推進	■ <b>重</b> ⑮はじめてえほん事業の実施 ⑯乳幼児やその保護者に対する読書活動支援の充実 ⑰読書活動を支援するボランティアの育成・強化【再掲】	
施策7 小中学校との連携・支援の充実	<b>重</b> ⑱授業に役立つ資料・情報提供の充実 ⑲学校図書館司書業務嘱託員等の育成 ⑳学校図書館における読書活動の充実	
施策8 中高生が参加できる事業の推進	■ ㉑中学生による読書推進事業 <b>重</b> ㉒高校生の本や読書に関する情報交換・発信事業の推進	
施策9 地域情報の収集・提供	■ <b>重</b> ㉓みや学講座の開催 ㉔地域資料のデジタルアーカイブ化の推進と資料の公開【再掲】 ㉕宮の魅力再発見事業の推進	●みや学講座の実施回数 〈0回/年→10回/年〉 ●行政支援サービス貸出冊数 〈1,700冊/年→2,000冊/年〉
施策10 各図書館の特色を活かした事業の実施	<b>重</b> ㉖行政支援サービスの推進 ㉗科学・技術情報提供サービスの充実 ㉘ビジネス支援サービスの充実 ㉙宇都宮アグリビジネスブランド化への支援 ㉚宇都宮プロスポーツアーカイブ事業の推進 ㉛子育て・家庭生活支援情報の充実	
施策11 課題解決に役立つ資料や情報の提供	㉜生活応援サービスの充実 ㉝レファレンスサービスの充実	
施策12 人と人をつなぐ場や機会の提供の充実	<b>重</b> ㉞世代を超えた交流の場の創出 ㉟本を通じて語り合える事業の充実	●世代を超えた交流（講座・イベント）の実施回数 〈18回/年→23回/年〉
施策13 市民との協働による読書活動の推進	㊱読書活動を支援するボランティアの育成・強化【再掲】 ㊲読書関係ボランティアの交流の推進	

### Ⅴ 計画の推進

- 計画期間 平成30年度（2018年4月）～平成34年度（2023年3月）までの5年間
- 計画の進行管理 事業の進捗状況については「社会教育委員の会議」等へ報告し、意見を聴取する。
- 計画の推進体制 本計画の着実な推進を図るため、施策・事業の実施にあたっては、図書館、生涯学習センター図書室等、さらに市民、家庭、学校等が連携することにより、様々な事業に取り組む。

令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

参考資料2

基本目標Ⅰ 市民一人ひとりが個に応じた多様な読書活動に親しんでいます。

施策1 さまざまな市民に向けた読書活動の推進

事業番号	事業・取組等 事業概要	事業区分	担当課	令和元年度の実績
1	<p><b>「よるとしよ」事業の実施</b></p> <p>日ごろ、読書や図書館を利用する機会が少ない20代から30代の読書活動を推進するため、閉館後の夜の図書館を活用し、若い世代が参加しやすい事業を実施する。</p>	新規	東図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月7日「ゆったりヨガ」(参加者16人)</li> <li>・2月27日「意外なチョコレートの魅力」(とちぎサイエンスらいおんとの連携)(参加者8人)(東図書館)</li> </ul>
2	<p><b>転入者向け図書館PR事業の実施</b></p> <p>本市への転入者に向けて市民の読書活動の拠点である図書館のPRを図るため、図書館の案内や利用方法のほか、宇都宮での暮らしに役立つ情報を探するためのパスファインダーを作成し、配布・公開する。</p>	新規	全図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月～ 作成した転入者向けリーフレットを市内の大学等に配布(2,800枚)</li> </ul>
3	<p><b>読書活動の啓発事業の実施</b></p> <p>読書活動の啓発を図るため、「宮っこフェスタ」など全市的なイベントに参加し、読書に関する情報を市民へ発信する。特に図書館に来館したことのない市民の利用を促進するため、図書館のPR事業を展開するほか、図書館等に設置してあるOPAC(利用者用端末)を読書活動の啓発に関する掲示板としても活用することで、効果的な読書活動の広報を行う。</p>	継続	全図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～1月 「サイエンスらいおんカフェ」(とちぎサイエンスらいおんプロジェクト主催)において本の出張貸出(計5回)(東図書館)</li> <li>・5月17日 子育て応援スペシャルデー開催(参加者8人)(上河内図書館)</li> <li>・5月19日 フェスタmy宇都宮に図書館ブースを出展</li> <li>・10月20日 子どものもりフェスティバルにて「森のおはなし会」を開催(のべ参加者120人)(南図書館)</li> </ul>
4	<p><b>センター図書室等の地域性や利用者層に合ったサービスの提供</b></p> <p>市民の多様化・複雑化するニーズに対応するため、地域性や利用者層を考慮したきめ細やかなサービスを提供する。また、各センター等の開催事業のテーマに合わせた図書室の展示等を行い、センター等と連携した相乗効果による利用促進を図る。</p>	継続	中央図書館 東図書館 南図書館 生涯学習センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター図書室等の開催事業のテーマに沿った資料提供の実施(54回)(中央・東・南図書館)</li> </ul>

令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

施策2 読書機会の少ない人々に向けたサービスの充実

事業番号	事業・取組等	事業区分	担当課	令和元年度の実績
	事業概要			
5	<b>アウトリーチサービスの推進</b>	新規 重点	全図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月14日 介護福祉老人施設 しらさぎ荘を訪問（河内図書館）</li> <li>・NPO 法人うりずん（障がい児レスパイト施設）を訪問（8月、2月）</li> <li>・児童養護施設「下野三楽園」を訪問し、おはなし会を実施（10月）</li> <li>・児童養護施設「きずな」を訪問し、おはなし会を実施（10月）</li> <li>・地域読書推進事業 上河内幼稚園とゆずのこ保育園（16回）（参加者379人） （上河内図書館）</li> </ul>
	読書機会の少ない市民の読書活動推進のため、来館が困難な高齢者や、読書機会の少ない子ども等が利用しやすい場所に出向き、資料の貸出、図書に関する情報提供、おはなし会等を実施する。			
6	<b>障がい者向けサービスの充実</b>	継続	中央図書館 南図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字図書、音訳図書の作成（点字図書67タイトル、音訳図書31タイトル）</li> <li>・音訳奉仕員読み方研修会（全10回）</li> <li>・第66回青少年読書感想文全国コンクール課題図書の点訳資料を栃木県立盲学校に貸与</li> <li>・10月23日 音訳奉仕員研修会開催</li> <li>・10月15日 点訳奉仕員研修会</li> <li>・視覚障がい者向けテープ作成のための落語会を開催</li> <li>・6月30日 バリアフリー上映会「愛を積むひと」を開催（参加者93人） （河内図書館）</li> <li>・手話つきおはなし会を実施（南図書館） 幼児向け…10回138人、小学生向け…10回103人</li> <li>・おはなし会スペシャルにおける手話つきおはなし会を実施（南図書館） 幼児～低学年向け…1回18人 幼児向け…1回45人 小学生向け…1回25人</li> </ul>
	図書館への来館が困難な障がい等を持つ方へ読書機会を提供するため、障がい者向けサービスの充実を図る。また、視覚障がい者の方向けの資料の提供を継続的に行うため、点字図書等の作成に関わる奉仕員への研修会を開催する。さらに、障がいを持つ子どものため、手話つきおはなし会や特別支援学校等への資料提供を実施する。			

【重点事業の目標値】

事業番号5 アウトリーチサービスの推進

指標名		平成28年度	⇒	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実施回数	目標値	—		3回/年	6回/年	9回/年	12回/年	15回/年
	実績	0回/年		5回/年	5回/年	回/年	回/年	回/年

※宇都宮市図書館調査より

令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

施策3 ICTを活用したサービスの充実

事業番号	事業・取組等 事業概要	事業区分	担当課	令和元年度の実績
7	<b>ICT技術を活用した読書活動の推進</b>	拡充 重点	全図書館	・平成31年1月10日 新図書館情報システム稼働後順次実施
	新たな読書の楽しみを創出し、市民の読書意欲を効果的に高めるため、自分のお気に入りの本や読んだ本の履歴が残る機能など、ICT技術を活用した情報提供を実施する。また、普及が進んでいる電子図書の導入について検討を進める。			
8	<b>地域資料のデジタルアーカイブ化の推進と資料の公開</b>	拡充	中央図書館 文化課	・平成31年1月10日 デジタルアーカイブシステム本稼働
	地域の歴史を次世代に伝えるため、貴重な史料等をデジタル化し、保存していく。また、利用機会を拡大するため、データベースとしてインターネットでの公開を進める。			

【重点事業の目標値】

事業番号7 ICT技術を活用した読書活動の推進

指標名		平成28年度	⇒	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
図書館ホームページアクセス数	目標値	—	⇒	920,000件	940,000件	960,000件	980,000件	1,000,000件
	実績	900,000件		731,570件	716,581件	件	件	件

※宇都宮市図書館調査より

施策4 読書環境の整備

事業番号	事業・取組等 事業概要	事業区分	担当課	令和元年度の実績
9	<b>読書意欲を高めるサービスの提供</b>	拡充	全図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全課、保健所、ふらっふ、水道局等の事業と連動した企画展示を実施 (中央図書館)</li> <li>・環境保全課、ふらっふ、水道局、消防署、保健予防課、国際交流協会、プロスポーツチーム、宇都宮ベンチャーズ (産業政策課)、栃木県知財総合支援窓口等の事業と連動した企画展示を実施 (東図書館)</li> <li>・環境保全課、埋蔵文化財センター、消防署等の事業と連動した企画展示を実施 (南図書館)</li> <li>・南としょかん祭において「おたのしみぶっく」を提供 (61セット) (南図書館)</li> <li>・コロナ禍での制限付き開館中、「きぶなぶっく！」を提供 (約100セット) (南図書館)</li> <li>・ふらっふ、消防署と連動した企画展示の実施 (上河内図書館)</li> <li>・子ども読書週間企画「おたのしみ袋」の提供 (15セット) (河内図書館)</li> </ul>
	市民が個に応じた読書に親しむため、時機に合わせた情報・資料の提供、関係機関の事業等と連動した読書活動を推進する企画展示等を実施し、市民の多様化するニーズに応じたサービスを提供する。			

令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

10	図書館施設の改修・機能向上事業の推進	継続	全図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月～ 駐車場整備工事開始（東図書館）</li> <li>・12月9日～ 1月30日 防災垂壁改修工事（中央図書館）</li> </ul>
	すべての市民が安全・快適に図書館を利用できるようにするため、計画的な改修に努め、施設・設備の機能向上を図る。			

基本目標Ⅱ すべての宮っ子が読書活動を楽しんでいます。

施策5 子どもの読書習慣を育む機会の充実

事業番号	事業・取組等 事業概要	事業区分	担当課	令和元年度の実績
11	「ウチでもどこでも読み聞かせ」事業の実施	拡充 重点	中央図書館 東図書館 南図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月15日 子育てサロンとよさとを訪問（参加者10人）（中央図書館）</li> <li>・10月16日 市内の小児科医の定例勉強会を訪問（参加者8人）（中央図書館）</li> <li>・11月20日 子育てサークル「ちゃりんこくらぶ」を訪問（参加者13人）（中央図書館）</li> <li>・1月15日 子育てサークル「こっころ」を訪問（参加者6人）（中央図書館）</li> <li>・2月22日 みゆき幼稚園を訪問（参加者30人）（中央図書館）</li> </ul>
	家庭での読書習慣を育むため、保護者のグループや育児サークルを対象に、家庭での読み聞かせの方法や絵本の紹介などの出前講座を実施する。			
12	アウトリーチサービスの推進【再掲】	新規	全図書館	—
13	「うつのみやこども賞」事業の実施	継続	中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うつのみやこども賞 第36回選定委員 20名 選定会議 全10回実施（中央図書館）</li> <li>・5月21日 第35回うつのみやこども賞受賞記念講演会を実施（参加者130名）</li> </ul>
	子どもの読書活動を啓発するため、日本人の作者による新作児童文学作品を対象に、市内の小学5、6年生公募委員が、その年一番友だちに薦めたい本を選び、賞を授与する事業を実施する。			
14	読書活動を支援するボランティアの育成・強化	継続	全図書館 学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月26日 読み聞かせボランティア研修会（参加者21校31人）（南図書館）</li> <li>・6月27日 読み聞かせボランティア研修会（参加者21校33人）（南図書館）</li> <li>・6月18日、11月8日 出前講座の実施（2団体36人）（南図書館）</li> <li>・毎月開催のおはなしボランティア勉強会 参加者のべ833人（中央：178人、東：127人、南：417人、上河内：46人、河内65人）</li> </ul>
	子どもの読書習慣を育むためにはそれに関わる人材の育成が重要であることから、図書館や学校等で活動する読み聞かせボランティアの人材の確保と育成に努める。また、要請に応じ、市民への出前講座を行う。			

【重点事業の目標値】

事業番号11 「ウチでもどこでも読み聞かせ」事業の実施

指標名		平成28年度	⇒	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業実施回数	目標値	—		3回/年	5回/年	7回/年	8回/年	10回/年
	実績	2回/年		5回/年	5回/年	回/年	回/年	回/年

※宇都宮市図書館調査より



令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

施策6 乳幼児期の子どもへの読書活動の推進

事業番号	事業・取組等 事業概要	事業区分	担当課	令和元年度の実績
15	<p><b>はじめて絵本事業の実施</b></p> <p>子どもが継続的に本に親しむきっかけづくりのため、乳幼児と保護者を対象として、生涯学習センター等でのおはなし会と読み聞かせの講座を実施する。</p>	新規 重点	中央図書館 東図書館 南図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月26日 はじめてえほん事業ボランティア研修会を実施(参加者11人)(中央)</li> <li>・10月2日 はじめてえほん事業ボランティア「わらべうたの実践」を実施(参加者10人)(中央図書館)</li> <li>・7月18日 はじめて絵本講座を実施(平石生涯学習センター, 参加者8名)</li> <li>・9月2日 はじめて絵本講座を実施(雀宮生涯学習センター, 参加者10名)</li> <li>・9月18日 はじめて絵本講座を実施(富屋生涯学習センター, 参加者8名)</li> <li>・10月30日 はじめて絵本講座を実施(瑞穂野生涯学習センター, 参加者4名)</li> <li>・11月14日 はじめて絵本講座を実施(田原コミュニティプラザ, 参加者4名)</li> <li>・12月12日 はじめて絵本講座を実施(南生涯学習センター, 参加者11名)</li> </ul>
16	<p><b>乳幼児やその保護者に対する読書活動支援の充実</b></p> <p>乳幼児とその保護者の読書習慣を育むため、図書館において本を通じてゆっくりと過ごせる時間「あかちゃんタイム」の実施や、親子で参加できる講座等を開催します。また、関係課と連携し集団検診時等にブックリストの配布を行う。</p>	継続	全図書館 子ども家庭課 生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～3月 あかちゃんタイムを実施(5図書館)</li> <li>・あかちゃんタイムの広報用チラシの作成, 配布</li> <li>・0・1・2歳向けおはなし会 参加者1,723人(中央:376人, 東:525人, 南:612人, 上河内:55人, 河内:155人)</li> <li>・0・1・2歳おはなし会スペシャル 参加者304人(中央:88人, 東:53人, 南:118人, 上河内:12人, 河内:33人)</li> <li>・1歳6か月児健康診査会場で子育てや読書に役立つパンフレットを配布</li> </ul>
17	<p><b>読書活動を支援するボランティアの育成・強化【再掲】</b></p>	継続	全図書館 学校教育課	

【重点事業の目標値】

事業番号15 はじめて絵本事業の実施

指標名	平成28年度	⇒	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
開催回数	目標値	—	3回/年	6回/年	9回/年	12回/年	16回/年
	実績	—	3回/年	6回/年	回/年	回/年	回/年

※宇都宮市図書館調査より

令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

施策7 小中学校との連携・支援の充実

事業番号	事業・取組等	事業区分	担当課	令和元年度の実績
	事業概要			
18	<b>授業に役立つ資料・情報提供の充実</b>	拡充 重点	南図書館 学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校希望図書 995件 22,734冊</li> <li>・中学校希望図書 243件 4,280冊</li> <li>・適応支援教室希望図書 71件 202冊</li> <li>・特別支援学校希望図書 64件 1,222冊</li> <li>・小学校学年別おすすめ本パックの入れ替えを実施</li> </ul>
	南図書館は小中学生への授業や読書活動を支援するため、学校の要望に応じた資料を図書館司書が選定して提供する。また、学校図書館の選書や教科の参考になる図書を選定し、学校巡回図書サービスを実施する。さらに小学校の英語の教科化等に対応した新たな学校パックの作成や、授業に即したパスファインダーの作成などを行う。			
19	<b>学校図書館司書業務嘱託員等の育成</b>	継続	学校教育課 南図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月4日 学校図書館司書業務嘱託員研修（初任者） 参加者22人（南図書館）</li> <li>・4月18日 学校図書館司書研修（全体）参加者93人（南図書館）</li> <li>・9月19日 小・中学校図書館関係者研修会 参加者95人（南図書館）</li> </ul>
	学校の教育活動全体を通じ、学校図書館を計画的に運用しその機能の充実を図るため、学校内や地域学校園内が連携して研修会等を開催し、司書教諭及び司書業務嘱託員の育成と能力向上を図る。			
20	<b>学校図書館における読書活動の充実</b>	継続	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～ 学校図書館司書による授業支援を実施</li> </ul>
	児童生徒の主体的、意欲的な読書を充実させるため、「第2次宇都宮市学校教育推進計画」に基づき、全校一斉読書や読み聞かせ、ブックトーク等を実施する。また、学校図書館司書による図書を利用した授業支援を実施する。			

【重点事業の目標値】

事業番号18 授業に役立つ資料・情報提供の充実

指標名		平成28年度	⇒	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学校希望図書利用件数	目標値	—	⇒	1,650件	1,700件	1,740件	1,770件	1,800件
	実績	1,600件		1,456件	1,373件	件	件	件

※宇都宮市図書館調査より

施策8 中高生が参加できる事業の推進

事業番号	事業・取組等	事業区分	担当課	令和元年度の実績
	事業概要			
21	<b>中学生による読書推進事業</b>	新規	全図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮っこチャレンジ中学生によるおすすめ本コーナーの設置（中央・東・南）</li> <li>・『中学生のためのBOOKナビ』を配布</li> </ul>
	読書推進と図書館利用啓発のため、中学生を中心とした世代向けのブックリストの発行等、図書館ホームページを活用し、同世代からのおすすめ本情報を発信するなど、図書館利用のきっかけづくりに取り組む。			

令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

22	<b>高校生の本や読書に関する情報交換・発信事業の推進</b> 高校生に向けて、将来へと繋がる柔軟な考え方や生き方を培う読書の重要性を発信するため、「MIYATEEN」（高校生のための読書情報誌）を発行する。また、高校生の読書活動を活発化するため、高校生自身が運営に関わるビブリオバトル（書評合戦）等の事業を展開する。さらに県と連携し高校生の読書活動の推進に取り組む。	<b>拡充 重点</b>	<b>全図書館</b>	・MIYATEEN編集会議開催（編集委員13人。開催日：7月7日、8月7日、8月13日） ・9月6日 宇工&宇南ビブリオバトル（発表61人、観戦者10人）（南図書館） ・9月18日～10月15日 1階、3階の展示コーナーにおいて「MIYATEEN10年間の軌跡」と題した企画展示を実施。 ・令和2年1月に「MIYATEEN Vol. 11」を発行 ・中高生コーナー特集展示 7回（南図書館）
----	---	------------------	-------------	---

【重点事業の目標値】

事業番号22 高校生の本や読書に関する情報交換・発信事業の推進

指標名		平成28年度	⇒	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
高校生対象の情報発信回数	目標値	—		5回/年	11回/年	17回/年	23回/年	30回/年
	実績	1回/年		2回/年	13回/年	回/年	回/年	回/年

※宇都宮市図書館調査より

基本目標Ⅲ 個人の問題や社会が抱える課題を解決するために図書館資源を活用しています。

施策9 地域情報の収集・提供

事業番号	事業・取組等 事業概要	事業区分	担当課	令和元年度の実績
23	<b>みや学講座の開催</b> 市民が郷土愛を育み、宇都宮について知識を深めるため、古文書や地域の資料などの図書館資源を活用して学べる「みや学講座」を開催する。	<b>新規 重点</b>	<b>全図書館</b>	・6月9日「蒲生君平の生涯をひもとく」を開催（参加者19名）（河内図書館） ・10月5日「宇都宮いにしへの城」（参加者38人）（南図書館） ・10月12日「宇都宮の戊辰戦争と山本有三」を開催（参加者38人）（中央図書館） ・11月10日「宇都宮南部における古代の信仰遺跡」（参加者39人）（南図書館）
24	<b>地域資料のデジタルアーカイブ化の推進と資料の公開【再掲】</b>	<b>拡充</b>	<b>中央図書館 文化課</b>	_____
25	<b>宮の魅力再発見事業の推進</b> 本市の魅力を発信し、後世に伝えるため、歴史・文化・観光等に関する資料の収集・提供を行う「宮の魅力再発見コーナー（中央図書館）」や「うつのみやブランドコーナー（東図書館）」の充実を図る。また、関連資料のリストや、パスファインダーの作成、講座の開催などの事業を推進する。	<b>継続</b>	<b>中央図書館 東図書館 南図書館 上河内図書館</b>	・10月14日 うつのみやの魅力再発見「栃木SCトークイベント」を開催（参加者43人）（東図書館） ・12月22日 うつのみやの魅力再発見「宇都宮ブリッツェントークイベント」を開催（参加者35人）（東図書館） ・2月15日 うつのみやの魅力再発見「酒造好適米夢ささが拓く日本酒の未来」を開催（参加者36人）（東図書館） ・随時、関係機関のパンフレットの収集、更新、提供（中央・東・南・上河内図書館）

【重点事業の目標値】

事業番号23 みや学講座の開催

指標名		平成28年度	⇒	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
講座開催数	目標値	—		2回/年	4回/年	6回/年	8回/年	10回/年
	実績	—		3回/年	4回/年	回/年	回/年	回/年

※宇都宮市図書館調査より

令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

施策10 各図書館の特色を活かした事業の実施

事業番号	事業・取組等 事業概要	事業区分	担当課	令和元年度の実績
26	<p><b>行政支援サービスの推進</b></p> <p>市職員が様々な情報を活用し、より良い行政サービスを遂行するため、求めに応じた資料・情報の調査・提供を行い、各部署が開催する研修や講座開催時には関連図書の貸出やブックリストの作成などを実施する。</p>	<p>拡充 重点</p>	<p>中央図書館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月～3月 人事課主催の研修への資料提供を実施（中央図書館）</li> <li>4月～12月 市民大学の各種講座への資料提供（中央図書館）</li> <li>7月～8月 人材かがやきセンター主催事業への資料提供（中央図書館）</li> <li>6月～11月 3229勉強会（市政研究センター）への資料提供（東図書館）</li> <li>5月18日 宇都宮城歴史講演会「中世宇都宮氏の在京活動と東大寺」（公園管理課）への資料提供（中央図書館）</li> <li>9月29日 宇都宮城歴史講演会「蒲生秀幸の生涯と宇都宮・若松」（公園管理課）への資料提供（中央図書館）</li> </ul>
27	<p><b>科学・技術情報提供サービスの充実</b></p> <p>科学・技術の面白さを知り理解を深めるため、県内大学等と連携して子ども向けの講座等を実施する。また、関連資料を収集・提供するほか、関連機関と連携し、テーマに関する展示やブックリストの作成を行う。</p>	<p>継続</p>	<p>東図書館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>7月13日 田原先生のわくわくサイエンス教室（参加者44人）</li> <li>7月24日・25日 けんび鏡講座 微生物とミクロの世界（ウエルシーライフラボ他）（参加者212人）</li> <li>7月26日 煮干しの解剖（帝京大学）（参加者72人）</li> <li>8月2日 パネル型ソーラークッカーを作ろう（足利大学）（参加者55人）</li> <li>8月7日 ロボットの展示とものづくり体験教室（宇都宮大学工学部）（参加者162人）</li> <li>8月9日 小学生のための夏休み科学体験教室（宇都宮白楊高等学校）（参加者165人）</li> <li>8月22日 カップホバーを作ろう（小山工業高等専門学校）（参加者48人）</li> <li>12月26日 発明協会のキットによる工作教室（参加者15人）</li> </ul> </li> <li>1月17日～2月19日 栃木県知財総合支援窓口・東図書館連携企画展示「防災」</li> </ul>
28	<p><b>ビジネス支援サービスの充実</b></p> <p>本市における産業の創出と中小企業の活性化を図るため、関連機関等と連携し、ビジネスに関する資料の収集・提供やセミナーなどの事業を実施する。</p>	<p>継続</p>	<p>東図書館 産業政策課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栃木県よろず支援拠点との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>無料経営セミナーの開催（38回）、関連資料の提供（1,140冊）</li> </ul> </li> <li>日本政策金融公庫との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>7月9日～14日 女性・若者向け創業相談ウィーク in 東図書館（参加者24組計29人）</li> </ul> </li> <li>宇都宮ベンチャーズへの関連書籍貸出（82冊）</li> <li>3月19日～5月20日 宇都宮ベンチャーズ・東図書館連携企画展示「起業するなら宇都宮ベンチャーズ」</li> </ul>
29	<p><b>宇都宮アグリビジネスブランド化への支援</b></p> <p>本市の農産物やアグリビジネスについて市民にPRし関心を高めるため、関連資料のコーナーの充実を図る。また、地域ブランドの発掘・創造支援のため、関連機関との連携事業を実施するほか、新着図書情報を発信する。</p>	<p>継続</p>	<p>東図書館 農林生産流通課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書・雑誌の収集、関連新聞記事のスクラップ（東図書館）</li> <li>うつのみやアグリネットワークメールマガジンに講座の開催情報を提供（東図書館）</li> </ul>

令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

30	<b>宇都宮プロスポーツアーカイブ事業の推進</b>	継続	東図書館 都市魅力創造課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書・雑誌の収集，関連新聞記事のスクラップ（東図書館）</li> <li>・関連グッズの展示（5回）（東図書館）</li> <li>・10月14日 うつのみやの魅力再発見「栃木SCトークイベント」を開催（東図書館）【再掲】</li> <li>・12月22日 うつのみやの魅力再発見「宇都宮ブリッツェントークイベント」を開催（東図書館）【再掲】</li> <li>・9月4日～10月20日 関連グッズの展示（南図書館）</li> </ul>
	プロスポーツを活かしたまちづくりや地域活性化のため，宇都宮に活動拠点を置くプロスポーツチームの関連資料を収集・保存・提供し，連携事業を実施する。			
31	<b>子育て・家庭生活支援情報の充実</b>	継続	南図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月19日 子どもフェスティバルを開催（来場者6,600人）（南図書館）</li> <li>・6月22日 家庭生活連携講座「わが家の安心ライフプラン」参加者13人（南図書館）</li> <li>・9月8日 小学生のためのアンガーマネジメント講座 参加者29人（南図書館）</li> <li>・9月21日 家庭生活連携講座「宇都宮市の防災」参加者14人（南図書館）</li> <li>・11月30日 家庭生活支援講座「はではでチャーターを描こう！」参加者102人（南図書館）</li> </ul>
	子育てや家庭生活に関する情報を提供するため，市民ニーズに応じた資料の収集・提供を行うほか，関連講座を開催する。			

【重点事業の目標値】

事業番号26 行政支援サービスの推進

指標名	平成28年度	⇒	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
貸出冊数	目標値	—	1,760冊	1,820冊	1,880冊	1,940冊	2,000冊
	実績	1,700冊	2,576冊	2,407冊	冊	冊	冊

※宇都宮市図書館調査より

令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

施策11 課題解決に役立つ資料や情報の提供

事業 番号	事業・取組等 事業概要	事業区分	担当課	令和元年度の実績
32	<p><b>生活応援サービスの充実</b></p> <p>市民が抱える課題解決への一助となるため、高齢者の暮らしや、医療・健康に関することなど、市民の利便性やニーズに応じた資料コーナーの充実を図るほか、関連事業を展開する。</p>	継続	全図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月19日 「ストレッチポールで心も身体もリフレッシュ」 (参加者20名)(河内図書館)</li> <li>・ 6月～2月 音読教室を実施(参加者63名)(中央図書館)</li> <li>・ 11月13日 ロングライフ支援講座「新聞から学ぶ文章術」を実施(参加者21人)(東図書館)</li> <li>・ 6月22日 家庭生活連携講座 「わが家の安心ライフプラン」(南図書館)【再掲】</li> <li>・ 9月 6日 シニア世代向け「スマートフォン教室」 (参加者26名)(河内図書館)</li> <li>・ 9月 8日 小学生のためのアンガーマネジメント講座 (南図書館)【再掲】</li> <li>・ 9月15日 「エンディングノート作成講座」(参加者57名)(中央図書館)</li> <li>・ 9月19日 「認知症サポーター養成講座」(参加者29名)(中央図書館)</li> <li>・ 9月21日 家庭生活連携講座「宇都宮市の防災」(南図書館)【再掲】</li> <li>・ 11月24日 「感染症の話～インフルエンザ対策」(参加者24名)(中央図書館)</li> <li>・ 11月30日 家庭生活支援講座(南図書館)【再掲】</li> <li>・ 11月26日 「イキイキ脳活講座～つながりと健康と笑い」 (参加者30名)(中央図書館)</li> </ul>
33	<p><b>レファレンスサービスの充実</b></p> <p>市民の主体的な学習活動や課題解決に役立つ資料・情報を提供するため、レファレンス事例のデータベース化等を進める。また、専門研修への参加や内部研修の実施などにより司書の能力向上に努め、サービスの充実を図る。</p>	継続	全図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レファレンス事例の登録</li> <li>・ 公開しているパスファインダーの更新</li> </ul>

令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

基本目標Ⅳ 読書活動を介して人と人が交流しています。

施策12 人と人をつなぐ場や機会の提供の充実

事業番号	事業・取組等 事業概要	事業区分	担当課	令和元年度の実績
34	<p>世代を超えた交流の場の創出</p> <p>図書館利用と地域の幅広い年代の交流の促進を図るため、地域の学校・企業・団体・ボランティア等と連携し、「南としょかん祭」「かわち図書館まつり」を開催する。また、学生等が講師となり、図書館資源を活用した子ども向け講座等を開催する。</p>	拡充 重点	全図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月19日 子どもフェスティバルを開催（南図書館）【再掲】</li> <li>5月19日 フェスタmy宇都宮（中央図書館）</li> <li>7月26日 煮干しの解剖を開催（東図書館）【再掲】</li> <li>8月2日 子ども向けハーブ教室を開催（参加者34人）（南図書館）</li> <li>8月2日 パネル型ソーラークッカーを作ろう（東図書館）【再掲】</li> <li>8月7日 ロボットの展示とものづくり体験教室を開催（東図書館）【再掲】</li> <li>8月9日 夏休み科学体験教室を開催（東図書館）【再掲】</li> <li>8月9日 夏休み点字体験（中央図書館）</li> <li>8月22日 カップホバーを作ろう空気の不思議を開催（東図書館）【再掲】</li> <li>10月6日 かわち図書館まつりを開催（来場者1,261人）（河内図書館）</li> <li>11月17日 世界の絵本を楽しもう！を開催（東図書館）</li> <li>11月2日・3日 三世代交流会を開催（参加者50人）（上河内図書館）</li> <li>11月10日 南としょかん祭を開催（来場者約5,500人）（南図書館）</li> <li>12月14日 宇都宮工業高校との連携講座「時計付き写真立てを作ろう！」（参加者29人）（南図書館）</li> </ul>
35	<p>本を通じて語り合える事業の充実</p> <p>人と人が読書の楽しさを共有する場を創出するため、特定のテーマについて参加者同士が気軽に語り合えるカフェトークや、おすすめ本の紹介をしあうビブリオバトル、音読教室等を実施する。</p>	継続	全図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月23日 読書会交流会及び合同読書会を開催（参加者18名）（中央図書館）</li> <li>6月16日 ビブリオバトルを開催（発表者11人、観戦者55人）（南図書館）</li> <li>8月19日 カフェトーク「飛行機はなぜとぶの？」を開催（参加者32人）（中央図書館）</li> <li>9月6日 宇工&amp;宇南ビブリオバトルを開催（南図書館）【再掲】</li> <li>2月9日 ビブリオバトルを開催（発表者9人、観戦者55人）（南図書館）</li> <li>6月～2月 音読教室を実施（中央図書館）【再掲】</li> </ul>

【重点事業の目標値】

事業番号34 世代を超えた交流の場の創出

指標名		平成28年度	⇒	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
講座・イベントの開催数	目標値	—		19回/年	20回/年	21回/年	22回/年	23回/年
	実績	18回/年		13回/年	14回/年	回/年	回/年	回/年

※宇都宮市図書館調査より

令和元年度「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に関する事業実績一覧

施策13 市民との協働による読書活動の推進

事業 番号	事業・取組等	事業区分	担当課	令和元年度の実績
	事業概要			
36	読書活動を支援するボランティアの育成・強化【再掲】	継続	全図書館 学校教育課	
37	読書関係ボランティアの交流の推進	継続	全図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮おはなしボランティア勉強会 月1回開催（全11回） 参加者（のべ140人）（中央図書館）</li> <li>・おはなしボランティア勉強会 月1回開催（中央図書館）（3月は未開催）</li> <li>・おはなしボランティア勉強会 月2回開催（南図書館）【再掲】</li> <li>・おはなしボランティア勉強会 月1回開催（東図書館）【再掲】</li> <li>・おはなしボランティア勉強会 月1回開催（上河内図書館）【再掲】</li> <li>・おはなしボランティア勉強会 月1回開催（河内図書館）【再掲】</li> </ul>
	読書活動や図書館に関わるボランティアの確保や活動の充実等を図るため、ボランティア同士の意見交換や交流を通して、図書館とボランティアの結びつきを強化し、サービスの向上を目指す。			



## 令和2年度第1回 図書館事業に係る意見交換会について

- 1 日時 令和2年12月3日（木）
- 2 場所 宇都宮市立中央図書館
- 3 出席者 参考人6人（関係機関1人、学識経験者2人、関係団体2人、利用者代表1人）
- 4 議事 令和元年度「宇都宮市読書活動推進計画」に関する施策事業の実績評価について

## 5 主な意見等

- ・ 色々な事業があるが記録を写真や映像で残しているか。
  - 映像は限られてしまうが、写真等では記録しており、図書館ホームページで報告もしている。また市民の方向けに写真などを盛り込んだ「館報としょかん」を作成し、図書館の魅力を発信し、未利用者への利用促進にも取り組んでいる。
- ・ 市内の小学校は資料を活用させていただいているが、子ども一人一人は本を読む子と読まない子に分かれており、読む家庭と読まない家庭の差を実感している。本を読まない層にさらにアピールする事業をすることはできないか。また学校図書館の司書に対する支援の充実を図ってもらいたい。
  - アウトリーチサービスとして図書館に足を運びにくい子どもたちのところへ訪問している。今年はコロナ禍のなかで訪問も満足にできない現状だが、これから訪問先を増やし、少しでも多くの子どもに読書の楽しみを知ってもらう機会を増やしていきたい。
  - 各図書館で企業や学校などと共催の「煮干しの解剖」、「ハーブ教室」など様々な講座（事業番号34）を実施し、講座をきっかけに気軽に図書館に足を運んでもらうような取り組みをしている。学校司書への取り組みは学校教育課とも連携して研修などの充実を図っていく。
- ・ 閲覧室が満席で利用できなかったと聞いたことがある。無駄足をふまないような対策を講じて欲しい。
  - 今年度10月22日から各図書館に座席予約システムを導入し、パソコンやスマートフォンから事前に席を予約することが可能になった。運用して1か月ほどだが、事前に予約できて便利だという声もいただいている。今後は予約システムの周知に一層努めていく。
- ・ 視覚障がい者向けの機器の充実を図ってほしい。
  - 読書バリアフリー法も施行され、今後機器等の充実について努力していく。
- ・ 東図書館はビジネス支援に特化した図書館ということで、昨年度は栃木県知財総合支援窓口・東図書館連携企画展示「防災」を実施したが、今年度もご協力いただきたい。よろず支援の拠

点として毎週土曜日にセミナーを開催させていただいているが、今年度の現在の相談数は61件でコロナ関係の相談もある。また8時まで開館していただければビジネスマンも利用しやすい。

→開館時間についてはご意見として承る。展示については、1月からスポーツに関する知財資料の展示をおこなう予定である。

## 令和 3 年宇都宮市成人式の延期について

### 1 趣旨

令和 3 年宇都宮市成人式の延期後の概要について報告するもの

### 2 主催・実施機関

【主催】 宇都宮市・宇都宮市教育委員会

【実施機関】 宇都宮市成人式各中学校区会場実施委員会

### 3 令和 3 年成人式を延期とした理由

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和 2 年 12 月 29 日に栃木県の警戒度が最大の「特定警戒」に引き上げられたことを受け、新成人やその家族、関係者の健康と安全を考慮し、令和 2 年 12 月 30 日に令和 3 年成人式を延期とする判断をした。

### 4 延期後の令和 3 年成人式の実施予定

#### (1) 日時

令和 3 年 11 月 14 日（日）

- |        |       |                          |
|--------|-------|--------------------------|
| ① 午前開催 | 受付    | 午前 9 時 30 分～午前 10 時 00 分 |
|        | 成人式典等 | 午前 10 時 00 分～            |
| ② 午後開催 | 受付    | 午後 1 時 30 分～午後 2 時 00 分  |
|        | 成人式典等 | 午後 2 時 00 分～             |

#### (2) 成人式の内容等

##### ① 成人式典

【目的】 20 歳を迎えた新成人の門出を、全市をあげて祝い、励ますもの

【内容】 開式、国歌・宇都宮の歌（斉唱は行わず歌詞入りの CD 音源を流す）、市長の激励のことば、来賓代表のお祝いのことば、来賓紹介、新成人代表の誓いのことば、閉式

##### ② 地域交流事業

【目的】 新成人の「地域社会の一員としての自覚」を促すとともに「地域に育てられたことへの感謝の気持ち」を育むもの

【内容】 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら検討

※ 飛沫感染を予防するため、会場内での飲食は禁止し、持ち帰り用菓子等を提供予定

#### (3) 会場

25 中学校区ごとの会場（ホテル・結婚式場等 9 施設 25 会場）

※ 詳細は別紙参照

#### (4) 該当者

平成 12 年 4 月 2 日から平成 13 年 4 月 1 日の間に生まれた、本市住民基本台帳に登載されている者

※ ただし、本市出身者で市外に転出した等、本市の成人式への出席を希望する者も対象とする。

- (5) 出席者推計
- ・ 卒業生数（平成27年度中学校卒業生数） 5, 015人
  - ・ 推定出席者数（各中学校卒業生数×各中学校区の過去3年平均出席率） 4, 149人

## 5 その他

- (1) 新成人に対するレンタル衣装等のキャンセル料の助成  
令和3年成人式の延期により生じたレンタル衣装等のキャンセル料については、新成人に対する助成を実施している。

### 【助成対象者】

本市成人式に参加を予定していた新成人

### 【助成対象とする費用】

- ① 衣装および小物のレンタルについてのキャンセル料
- ② 着付代、ヘアメイク代等の当日準備についてのキャンセル料  
（ただし、前撮り等を含んだセット料金やパック料金で、個別に金額を切り離せない場合は、セット料金の全額を対象）

### 【助成額】

（助成割合）対象費用の2分の1を助成

（上限額）新成人1人に対し3万円を上限

- (2) 令和4年宇都宮市成人式の開催予定

令和4年1月9日（日）

- |        |       |                   |
|--------|-------|-------------------|
| ① 午前開催 | 受付    | 午前 9時30分～午前10時00分 |
|        | 成人式典等 | 午前10時00分～         |
| ② 午後開催 | 受付    | 午後 1時30分～午後 2時00分 |
|        | 成人式典等 | 午後 2時00分～         |

おしらせ

# 令和3年宇都宮市成人式

※新型コロナウイルス感染症の影響により  
延期した成人式を開催いたします。

令和3年成人式は  
11月14日(日)に開催予定です

※ 令和3年1月10日(日)の成人式にご出席を  
予定していた新成人の方が対象です。



- 対象 平成12年4月2日～平成13年4月1日に生まれた人
- 会場・時間 裏面の通り
- 案内状 9月中旬ごろ発送予定

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を考慮し、式典の開催方法・内容に変更が生じる場合や、やむを得ず延期または中止になる場合がございます。  
開催に関する情報は、ホームページをご確認いただきますようお願い申し上げます。

新成人  
愉快だ  
宇都宮  
UTSUNOMIYA

宇都宮市 成人式

ページ番号  
1006529

検索

【お問合せ】宇都宮市教育委員会事務局 生涯学習課 (632) 2677

令和3年3月8日発行

## 令和3年宇都宮市成人式 会場一覧

**◆ 陽東・泉が丘中学校区は令和2年10月公表の会場から変更がございます**

中学校区など	成人式会場	
	午前開催	午後開催
一条中学校区		護国会館
陽北中学校区 栃木県立のぞわ特別支援学校 栃木県立わかさ特別支援学校		宇都宮東武ホテルグランデ
旭中学校区	護国会館	
陽南中学校区	宇都宮短期大学附属高校 記念講堂	
陽西中学校区 作新学院中等部 宇都宮短期大学附属中学校 文星芸術大学附属中学校 栃木県立盲学校 栃木県立聾学校 宇都宮大学教育学部附属特別支援学校		宇都宮グランドホテル
星が丘中学校区	ホテル東日本宇都宮	
◆陽東中学校区 宇都宮東高等学校附属中学校	作新学院大学 作新清原ホール	
◆泉が丘中学校区		作新学院大学 作新清原ホール
宮の原中学校区	宇都宮グランドホテル	
清原中学校区 宇都宮海星女子学院中学校		宇都宮東武ホテルグランデ
横川中学校区		ホテルニューイタヤ
瑞穂野中学校区	宇都宮グランドホテル	
豊郷中学校区	宇都宮東武ホテルグランデ	
国本中学校区		ホテル東日本宇都宮
城山中学校区		コンセーレ
晃陽中学校区 栃木県立富屋特別支援学校	ホテルニューイタヤ	
姿川中学校区	宇都宮東武ホテルグランデ	
雀宮中学校区	ホテルニューイタヤ	
鬼怒中学校区	ホテルマイステイズ宇都宮	
宝木中学校区 宇都宮大学教育学部附属中学校		ホテル東日本宇都宮
若松原中学校区		宇都宮短期大学附属高校 記念講堂
上河内中学校区	ホテルマイステイズ宇都宮	
古里中学校区	ホテル東日本宇都宮	
田原中学校区		ホテル東日本宇都宮
河内中学校区 栃木県立岡本特別支援学校	ホテル東日本宇都宮	

開催日	令和3年11月14日（日曜日）	
開催時間	午前開催	午後開催
受付	午前9時30分～10時	午後1時30分～2時
式典等	午前10時～	午後2時～

## 令和 3 年度 社会教育関係団体に対する補助について

## ◎ 趣旨

令和 3 年度の社会教育関係団体に対する補助金交付にあたり，社会教育委員の会議から意見を聴取するもの

- ・ 社会教育関係団体とは，本来，自由で自主的な活動を旨とするものであり，自主的主体的な活動を行っているかを確認していただくもの。
- ・ 行政の補助金の目的は，あくまで団体による社会教育活動の支援であり，市が団体に対して不当な統制的支配や干渉を加えていないことを確認していただくもの

## 1 社会教育関係団体への補助金交付の条件

- (1) 本市に事務所を置き，本市域内で社会教育活動を行っている団体
- (2) 営利を目的とせず，会員が自主的に運営している団体
- (3) 本市社会教育の振興に寄与すると認められる事業を行う団体

## 2 社会教育関係団体への補助金額

「宇都宮市社会教育関係団体補助金交付要綱」および「宇都宮市社会教育関係団体補助金補助基準」により定める。

## 3 社会教育関係団体への補助金に関する関係法令

## ○社会教育法第 13 条

「国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には，あらかじめ，国にあつては文部科学大臣が審議会等で政令で定めるものの，地方公共団体にあっては教育委員会が社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない。」



(補助金交付により市が不当な統制的支配をしていないか，社会教育関係団体が自主的主体的な活動を行っているか，などの点検の必要性を示している)

## 4 令和 3 年度交付予定団体

- ・ 宇都宮市子ども会連合会
- ・ 宇都宮市 P T A 連合会
- ・ 宇都宮市文化協会

## 令和2年度 社会教育関係団体の概要及び補助金額

### No.1 (生涯学習課補助)

団 体 名	宇都宮市子ども会連合会	代 表 者 名	石塚 勝
事 務 局	宇都宮市天神1-1-24 宇都宮市教育センター内 (TEL 632-1155)		
会 員 数	(子ども会員) 約21,300名 (育成者, 指導者) 約12,000名		
目 的	各地区子ども会育成会連絡協議会(地区子連)相互の連携を強化し, 各地区子ども会活動の活性化に努め, もって次代を担う青少年の健全育成に寄与する。		
(参考) 令和元年度	活動内容	①イベントへの参加 ②研修会の開催 ③市子連役員の各委員顧問の会議への出席 ④各地区連合会への助成, ULC(宇都宮リーダースクラブ:高校生)への助成 など	
	成果や課題	①フェスタmy宇都宮で模擬店を出店しながら, 子ども会の活動への理解・協力をしてもらえるようアピール。ULCでも出展し, 沢山の子ども達や親子連れが訪れ好評だった。円滑な実施に向けて今後はもう少し人員を増やしたい。同様に来店予定だった宮っこフェスタは台風の影響で中止となった。 ②指導者育成者向けの研修会を開催し, 各地区子ども会の指導者や子ども達が参加した。 ③社会教育委員や文化創造財団, 国体などの会議に市子ども会連合会として参加した。 ④各地区の子ども会やULCの活動の活性化を図るため助成費を支出した。	
	今後の取組方針	①団体の活動を知ってもらう機会, アピールする機会として今後も様々なイベントに積極的に参加していく。 ②各地区の指導者の育成に向け, 引き続き有意義な研修を企画し実施していく。 ③各委員の組織への協力・参加は, 組織に貢献するだけでなく, 各役員の資質向上にもつながることであることから, 今後も継続していく。 ④各地区の活動の活性化・活発化を図るため, 今後も継続して助成していく。	
令和2年度の補助対象事業	【事業費】フェスタmy宇都宮等イベントへの出店, 指導者育成者研修会(年2回) 【派遣費】市子連役員各委員顧問の会議 【助成費】地区子連活動の助成, 宇都宮リーダースクラブ(高校生)の育成強化		
備 考	類似団体 ・青少年育成市民会議 青少年の健全育成を図るため市と共催で事業を実施。39地区青少年育成会と25団体で構成。(子ども未来課所管)		
令和2年度市補助額	1,062,000円		



No. 2 (生涯学習課補助)

団 体 名	宇都宮市 P T A 連 合 会	代 表 者 名	福 田 治 久
事 務 局	宇都宮市天神 1 - 1 - 2 4 宇都宮市教育センター内 (TEL 6 3 2 - 7 8 5 6)		
会 員 数	約 3 7 , 6 0 0 名		
目 的	単位 P T A 相互の連絡と協力による児童・生徒の健全な育成, 各 P T A 組織のさらなる発展等の共通目的の達成を目指す。		
(参考) 令和元年度	活動内容	①研修会等の開催, 参加 ②単位 P T A の活動補助 ③各委員会等の活動 ④広報紙の発行, コンクールの開催 など	
	成果や課題	① P T A 会長向けの研修会や, 校長と P T A 会長の相互交流を交えた研修会, 指導者向けの研修会を開催し, 多くの参加者から好評を得たが, 研修会の開催日時については検討していく必要がある。また, 日本 P T A 全国大会に参加し活発な情報交換を行った。 ②多くの単位 P T A から保護者向けの研修や講座などの活動について申請があり補助した。 ③常置委員が, 保護者のニーズを考慮した活動を実施し, 多くの保護者の参加を得た。時期が重複する活動もあったため, 今後は調整を図りたい。 ④市 P 連の様々な活動を会員に報告する広報紙を年 2 回発行するとともに, 単位 P T A の	
	今後の取組方針	①研修会によっては, 周知をしたが知らなかった保護者も多い研修会もあったので, ホームページを活用した周知などしながら, 引き続き研修会を開催していく。全国大会への参加も役員の資質向上につながるとともに, 県外の団体との貴重な交流機会であるため, 引き続き継続して参加していく。 ②単位 P T A への補助を継続し, より多くの P T A が申請できるよう周知していく。 ③活動の日時等を検討しながら, 活動方針に沿って進めていく。 ④会員のニーズに応える広報紙を作成するとともに, コンクールにはより多くの P T A が参加できるよう開催周知の徹底を図っていく。	
令和 2 年度の補助対象事業	<b>【活動費】</b> ・各種研修会の開催および研修会への参加 ・単位 P T A への活動補助 ・各委員会等の活動 ・広報紙の発行, コンクールの開催 など		
備 考			
令和 2 年度市補助額	9 1 7 , 0 0 0 円		

No. 3 (文化課補助)

団 体 名	宇都宮市文化協会	代 表 者 名	赤澤 豊
事 務 局	宇都宮市旭1-1-5 宇都宮市教育委員会文化課内 (Tel 6 3 2 - 2 7 4 6)		
会 員 数	約600名		
目 的	芸術及び文化関係者の連絡協調と親睦を図るとともに、広く市民の参加を求め、本市文化の向上・振興を目的とする。		
(参考) 令和元年度	活動内容	①会員・文化関係者間の連絡協調 ②各種講座・教室等の開催 ③イベントの開催, 参加 ④広報活動等	
	成果や課題	①定期総会や役員会の開催, 会報や協会紙の発行などにより, 会員や文化関係者等において連絡協調を図った。 ②ふれあい文化教室(小中学校等への文化芸術講師派遣事業)を95校134回実施したほか, 歌舞伎鑑賞会やスケッチ会, 文化探訪, マジック講座の開催など, 市民が文化芸術に触れる・学ぶ機会を創出することができた。 ③例年の「うつのみや文化協会まつり」(観覧者数約2,000人)の開催ほか, 令和元年度は, 創立40周年記念式典や, 栃木県文化振興大会(観覧者数約1,600人)の本市開催など, イベント開催の充実により, 文化芸術関係者の交流促進や本市の文化芸術のPRを図ることができた。 ④会報や協会誌を発行して会員及び文化芸術関係者間への情報発信を図ったほか, ホームページでの団体や活動の紹介, 各イベント・事業のチラシ・ポスター・市広報紙等による広報活動に取り組み, 広く市民に周知を図ることができた。	
	今後の取組方針	・引き続き, 関係者間の連絡協調や市民が文化芸術に触れる・学ぶ機会の創出, イベントの開催, 広報活動などに取り組み, 本市文化の向上・振興に努める。	
令和2年度の補助対象事業	・ふれあい文化教室, スケッチ会, 文化探訪, 文化協会会員展 ・うつのみや文化協会まつり, 歌舞伎鑑賞会, 子どもマジック教室, マジック講座, うつのみや文化の集い, 栃木県文化振興大会 ・会報, 協会誌の発行 など		
備 考			
令和2年度市補助額	1,380,000円		

## 令和3年度 社会教育行政の基本方針及び重点施策について

## ◎ 趣旨

令和3年度における社会教育行政の基本方針及び重点施策について協議するもの

## 1 基本方針

本市を取り巻く社会環境の変化は、人口減少、少子・超高齢化の進行、地域コミュニティの変容、情報通信技術（ICT）の劇的な進化、グローバル化の一層の進展、貧困と格差の拡大、人々の価値観の多様化など多岐にわたっている。また、近年の新型コロナウイルス感染症の影響は生活習慣にまでおよび、人と人がつながりを深めづらい、つながりをつくりづらい社会となっている。このような変化の中においても、一人ひとりが生涯にわたって活躍し、豊かで安心して暮らせる社会を実現するためには、一人ひとりが、社会の変化に対応できる思考力・問題解決能力や、多様な人々と協働できる社会・対人関係力などの人間力を高め、社会全体で新たな価値を創造していくことが重要である。

こうしたことから、「第3次宇都宮市地域教育推進計画」に基づき、様々な課題に対応した学習機会の拡大を図る「今日的課題に対応した取組」や、家庭を取り巻く環境の変化に対応した「きめ細かな家庭教育支援」、地域が一体となって次代の担い手である子どもの健やかな成長を支える「地域ぐるみの教育活動の充実」、学びを通してつながりを深め、様々な場面での活動を促進する「多様な主体による学習機会の提供」などについて、社会環境に応じて効果的な手法で取り組んでいく。

## 2 重点施策

## (1) 人間力を高める主体的な学習活動の推進に資する施策

様々な社会環境の変化により、求められる能力も変化していく社会において、個人が生涯を通して生きがいを持って活躍していくためには、一人ひとりが積極的に学び続け、必要とされる知識や技術を身につけていくことが重要であることから、市民一人ひとりの人間力を高める主体的な学習活動を推進する。

- ・ ICTを活用した講座の実施など、場所を問わない学習機会の創出
- ・ 今日的課題や地域課題など、多様な課題解決に資する学習の推進
- ・ 高齢や障がい、経済的・家庭的な困難など、様々な困難を有する人の学習活動の支援
- ・ 「第2次宇都宮市読書活動推進計画」に基づく、ニーズを捉えた読書機会提供の充実

## (2) 家庭・地域の教育力の向上に資する施策

地域における人と人とのつながりや連帯感、支えあいの意識が希薄化し、家庭・地域の教育力や地域コミュニティ機能の低下が懸念される中、地域社会が発展していくためには、個人の学習はもとより、個人が属する家庭をはじめ、地域で活動する各主体の連帯感を創出し、身近な地域コミュニティを活性化することが重要であることから、子どもを育む教育活動を通じて地域の人々の交流を促し、子どもも大人も、地域

全体で学び合い育ち合うことで、家庭・地域の教育力の向上を図る。

- ・ 「放課後子ども教室」の充実による、地域ぐるみの子育ての推進
- ・ 子ども・子育て支援新制度の影響や社会情勢の変化に対応した、新たな管理運営体制による子どもの家事の実施
- ・ 家庭教育に必要な知識の習得と意識の高揚を図る、草の根的な「親学」の推進
- ・ 不安や悩みを抱える家庭に寄り添い届ける「アウトリーチ型支援」の充実
- ・ 「魅力ある学校づくり地域協議会」による放課後等の学習支援（地域未来塾）の促進

### **(3) 学んだ成果を生かした活動の推進に資する施策**

社会環境がめまぐるしく変化し、人々の価値観やニーズも多様化していく社会において、地域課題の解決や地域社会の活性化などの取組を促進するためには、誰もが学びを通して身につけた知識や技術を生かして社会参画する「学習と活動の循環」が重要であることから、多様な主体と人々がつながることで社会参画のきっかけを作り、様々な場面で学んだ成果を生かして活動できるよう支援する。

- ・ 「宮の学び人レクチャー」など学んだ人材を活動につなぐ仕組みづくり
- ・ 市民が培った知識や経験を生かした、地域の学習活動を支える人材の育成
- ・ 地域づくりの取組のきっかけとなる、地域の歴史や文化等の学習を通じた郷土愛や住民意識醸成の取組の推進

## 令和3年度 文化行政の基本方針及び重点施策について

## ◎ 趣旨

令和3年度における文化行政の基本方針及び重点施策について協議するもの

## 1 基本方針

市民の皆さんが文化を身近に感じるとともに、郷土に対する誇りや愛着を持つことができるよう、基本理念を「くらしの中に文化が息づくまち宇都宮～豊かな文化を感じ、未来につながる～」として総合的・効果的に施策を推進し、本市が優先・重点に掲げる「人づくり」や「第6次宇都宮市総合計画」に掲げた政策の柱「魅力創造・交流の未来都市」の実現を目指す。

現在、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、日本固有の歴史や伝統、芸術文化の再認識と継承・発展、さらには世界への発信など、歴史文化資源を活かした地域活性化の取組を国主導で推進しており、また、本県においては令和4年度に国民体育大会の開催が予定されている。本市においてもこうした時代の潮流を的確に捉え、また、新型コロナウイルス感染症対策も十分に講じながら、日本遺産に認定された「大谷石文化」など本市の特色ある歴史文化の保存・活用を積極的に進めレガシー（将来に引き継ぐべき有益な遺産）として繋いでいくとともに、文化施設を核とした市民の文化芸術活動の一層の活性化を図っていく。

## 2 重点施策

## (1) 文化を身近に感じ、活動できる環境づくりの推進

市民が暮らしの中に文化を取り入れやすくするため、質の高い文化芸術に触れる機会の創出や文化芸術活動の発表・鑑賞の場の充実を図る。

- ・ 市民や子どもたちの文化芸術活動の成果発表や鑑賞機会を提供するため、文化団体や教育機関と連携して「宇都宮市民芸術祭」や「うつのみやジュニア芸術祭」を開催
- ・ 市文化会館において、開館40周年記念事業として、本市出身で世界的ジャズ奏者の「渡辺貞夫ジャズコンサート」や「東京フィルハーモニー交響楽団演奏会」などの舞台芸術事業を開催するほか、市民に身近な地区市民センターにおいて「出前寄席」を開催
- ・ 宇都宮美術館において、宇都宮エスペール賞受賞者「伊藤遠平（絵画・インスタレーション）」展や、国内最大級のコレクションを誇る「ジョルジュ・ピゴ（油彩・水彩等）」展を開催。また、8月から令和4年度にかけて、施設の経年劣化に伴う空調設備改修、照明LED化等の施設保全整備を実施

## (2) 文化をつなぐ人材育成の推進

本市の貴重な文化資源を守り次世代に引き継いでいくため、担い手や後継者の育成を図るほか、伝統文化の保存や継承に取り組む団体の支援を推進する。

- ・ 将来を担う子どもたちが、様々な伝統文化や芸術に触れる機会を創出するため、「宮っ子伝統文化体験教室」や「ふれあい文化教室」、「宇都宮美術館訪問鑑賞事業」等を開催
- ・ 祭りや民俗芸能、伝統料理など地域固有の伝統文化に対する市民の意識高揚を図るため、「宇都宮伝統文化連絡協議会」と連携して「伝統文化フェスティバル」や「伝統文化講座」等を実施
- ・ 文化財愛護団体や文化財ボランティアなど市民主体による文化財の保存・活用の取組への支援を推進
- ・ 邦楽や茶華道、ダンスなど幅広い文化芸術の振興と担い手の育成を図るため、「宇都宮市文化協会」と連携して「ふれあい文化教養講座」や「文化協会まつり」等を実施

### (3) 宇都宮文化の創造・継承の推進

本市の歴史文化に対する市民の興味関心や理解を深めるとともに、歴史文化資源を地域や社会全体で継承していくため、調査・研究や公開・活用、普及啓発等の取組を推進する。

- ・ 「宇都宮市歴史文化基本構想」で設定した「中世宇都宮氏」・「交流都市宇都宮」など本市の歴史の特色や魅力をまとめた8つのストーリーや、宇都宮城の再現VR（バーチャルリアリティ）などを活用した歴史文化資源の普及啓発を推進
- ・ 新たに創設した「みや遺産制度」により、地域において大切に守り引き継がれてきた歴史文化資源を市民全体で共有するとともに、保存・活用に取り組む団体への支援を実施
- ・ 日本遺産「大谷石文化」の保存・活用を図るため、官民連携の「宇都宮市大谷石文化推進協議会」を核に普及啓発や情報発信のほか、ガイド養成による人材育成やサポーター制度の検討などの環境整備を実施
- ・ 大谷地域における奇岩群など自然の景観と大谷石産業から生まれた石切り場跡など特異な景観を保護していくため、国の重要文化的景観選定に向け地域や所有者等の同意を得て、保存活用計画を策定し、国への選定の申出を実施

### (4) 文化を活用したまちづくりの推進

文化の持つ価値や魅力を地域活性化に生かしていくため、本市にゆかりのある文化資源を核とした普及啓発や情報発信等の取組を推進する。

- ・ 本市の文化資源である「百人一首」を活かしたまちづくりを推進するため、「百人一首市民大会」「蓮生記念全国競技かるた宇都宮大会」の開催や普及啓発事業を実施
- ・ 本市の文化資源である「ジャズ」を中心とした音楽のまちづくりを推進するため、「市民向けジャズセミナー」や「まちかどピアノ」など普及啓発事業を実施
- ・ 全国的にも稀有な「うつのみや妖精ミュージアム」において、妖精資料を活用した企画展やワークショップ等を実施

## 「社会の要請」への対応に関する提言について

## ◎ 趣旨

これまでいただいたご意見を整理し、提言書の作成に向けて協議するもの

## 1 経緯

社会教育委員の会議においては、本市の「人づくり」を着実に推進するために取り組むべき学習課題として、『社会の要請』と求められる学習について』の提言書を平成26年10月にとりまとめた。しかし、社会情勢等が激しく変化し続ける中で、解決が求められる社会的課題はより多様化してきていることから、平成26年度の提言書の内容を踏まえつつ、現在の社会情勢等に即した今日的課題の再整理と、その課題解決に向けて積極的に取り組むべき学習について、令和2年7月の第1回社会教育委員の会議から検討を始めた。

## 2 「社会の要請」に関する各委員からのご意見

第2回社会教育委員の会議（令和2年10月20日開催）や、会議終了後にFAXでいただいた各委員からのご意見は裏面のとおり。

## 3 「社会の要請」への対応に関する提言について

前回いただいた意見などをもとに提言書（案）としてとりまとめた。

⇒ 別紙提言書（案）『社会の要請』と課題解決に向けた取組について」

※ 提言書（案）におきまして、『1「社会の要請」』の文中の下線および①～⑫の番号をつけておりますが、これは各委員からのご意見の①～⑫をどのように反映させたかわかりやすくしたものです。最終的な提言書には、下線および①～⑫の番号は記載いたしません。

## 【各委員からのご意見】

## ・「人生100年時代の到来」について

- ① 「学校、家庭、地域の連携」は、子育てだけだと矮小化されてしまう懸念があり、生涯を通じての社会教育を考えていくのなら、社会や地域を大事にするという視点からこちらにも含んでよいのではないかと。
- ② 健康には、心の健康という側面もあるため、そういった面もはっきり記載したほうが良いのではないかと。

## ・「子育て・子育て環境の変容」について

- ③ 子どもの育ちを考えるのであれば、虐待やいじめ、自死なども考えていくべきではないかと。
- ④ 学校教育とちがう部分はあると思うが、不登校やひきこもりに関することもしっかり言葉で触れた方がよいのではないかと。
- ⑤ 学びに積極的に出てくる親の自己肯定感の低さと自己承認欲求等の強さのアンバランスさが子どもへの虐待につながるなどを感じる。なぜ虐待や自殺が起きるのかの根本に触れつつ社会教育として何か取り組んでいけたらよいのではないかと。
- ⑥ 親の中には、自身を客観的に見られない親や、子どもを自分の持ち物や分身のように考え、子どもへの注意を自身への侮辱と捉える親などがおり、親への言い方を間違えると、否定されていると受け止められ、周りの人との接触も避けるなどして虐待や引きこもりにつながるよう感じる。
- ⑦ 家庭教育においては、経済的な格差など、複雑で多様な課題があり、様々な分野が関わってくるが、学校教育ではもう手一杯の中で、社会教育はどのように関わっていくかを考える必要がある。

## ・「規範意識・社会性の低下」「地域コミュニティの衰退」について

- ⑧ 今のコロナ禍において、障がい者施設では、施設の利用者と職員だけで対応しなくてはならず、いろいろと難しいところもある。障がい者の方々が地域で安心して一緒に暮らせるための話も少し入ってくるとよい。

## ・「社会全体のデジタル化」「進展するグローバル化」について

- ⑨ 社会教育委員の会議なので、社会や地域を冷静に捉え、地域社会をベースにおいたICT化、グローバル化という発想が重要。また、国際理解、多文化共生等のキーワードは重要。
- ⑩ 実際に農業などでも様々な管理がデータ化されてきており、高齢者もICTを活用する必要性が高まっている現状がある。

## ・「地球規模での自然環境の変化」について

- ⑪ SDGsを気にしていかななくてはならない中、重要な部分であり、もう少しSDGsを記載してもよいかと思う。
- ⑫ 大規模な災害が毎年起きている中、災害に備えてとともに、災害にあった中でどのように関わり、つないでいくかなども出てくるかと思う。



(案)

提言書

「社会の要請」と課題解決  
に向けた取組について

令和3年〇月

宇都宮市社会教育委員の会議

## 提言にあたり

現在、我々を取り巻く社会環境は、少子化による人口減少、人生100年時代と言われる長寿化の進展、Society 5.0の実現に向けた社会全体のデジタル化、情報化に伴うグローバル化の拡大など、激しい変化の渦中にあり、今後もさらなる変化が見込まれる中で様々な課題が生じている。さらに、近年、世界的規模で拡大している新型コロナウイルス感染症は、人々の生命を脅かすだけでなく、行動・意識・価値観の変容にまで波及しており、経済・社会など多方面に甚大な影響を与える中、デジタル化やオンライン化の遅れ、新たな技術を活用できる人材の不足など、我が国の抱える様々な課題やリスクを浮き彫りにしている。

本市においても、人口は2018年をピークに減少へと転じ、さらなる高齢化の進行も見込まれる中、地域においては、一人親家庭や核家族など家族形態の変容、人と人、人と地域のつながりの希薄化、地域の担い手不足など、地域の抱える課題のさらなる複雑化・多様化が懸念されている。そのため、本市行政においては、「宇都宮市第6次総合計画」を平成30年3月に策定し、「人づくり」と「まちづくり」の一体的な推進による「まちづくりの好循環」の創出を図っており、令和元年度には国から「SDGs未来都市」として選定されるなど、「未来都市うつのみや」の実現に向けて取り組んでいる。

このように社会・経済環境が激しく変化し、次々と新たな課題が顕在化する中、我々は、宇都宮市の社会教育委員として、専門的な見地から意見し、今後の本市社会教育行政をより良い方向に導くことが重要な役割である。そのため、今日的課題やこれから見込まれる社会的課題など、社会全体での対応が求められている「社会の要請」の整理や、それらの課題と向き合い、解決へと導くことができる社会の担い手を育成するための学習をどのように展開するべきか、委員それぞれの立場から考察し、議論を重ねてきた。

こうした検討の積み重ねをとりまとめ、本市の社会教育の方向性を示したものが、この『「社会の要請」と取り組むべき学習について』の提言であり、本市社会教育行政の基本計画である「第3次宇都宮市地域教育推進計画」に掲げる目標を達成していくために必要不可欠な取組をまとめたものと言える。

社会がめまぐるしく変化を続け、人々の価値観や行動も多様化している中において、一人ひとりが学習を通じて様々な課題への理解を深めるとともに、年齢、職種などあらゆる垣根を越えて「つながり」を形成し、皆が一丸となって「社会の要請」に応じていくことができるよう、この提言の内容が着実に実現されることを期待する。

## 〔提 言〕

### 1 「社会の要請」

近年の社会・経済環境の変化や、これから起こりうる変化を想定した上で、社会全体で対応していくことが必要な課題を以下のとおり挙げる。

#### (1) 「人生100年時代の到来」への対応

##### ア 健康寿命や防犯に関する学習機会の充実

人生100年時代と言われる中においては、誰もがいつまでも生きがいを持ち、自分らしく、心も体も健康的②に生活をしていくことがこれまで以上に重要である。そのような中、日常生活の中で心身を適切に自己管理していくとともに、特に高齢者については、高齢者をねらった詐欺なども多発しており、巻き込まれた人の経済的被害、心的被害は深刻なものであることから、様々な犯罪やトラブルなどを回避する能力も身につけていく必要がある。

##### イ 他者との人間関係の構築、地域における多様なつながりの形成①

家族形態の変容や地域のつながりの希薄化等により、社会からも家族からも孤立してしまい孤独死する高齢者などが問題となっている中、安心・安全で心豊かに地域社会の中で生活し、活動していけるよう、気の合う友人や地域活動を通して知り合う知人など、他者とのつながり①をつくっていくことが必要である。

##### ウ いつまでも社会で活躍できる環境や機会の充実

人生100年時代の中で、いつまでも健康で文化的な生活を送るためには、何歳になっても社会の一員、地域の一員として、これまで培ってきた多様な知識や技術を生かしていくことが重要であるため、社会的役割をもち、活躍できる環境や機会を創出していくことが必要である。

#### (2) 「子育て環境の変容」への対応

##### ア 育児への孤立感の解消に向けたつながりの形成

家庭における育児の孤立感、地域の人間関係の希薄化による社会からの孤立感など、育児の孤立化によるストレスや負担感から虐待につながることもある中、子育てに悩んでも相談できない保護者が、悩みを打ち明け、共有できるつながりづくりが必要③である。

##### イ 家庭の教育力を高める家庭教育支援の推進⑤⑥

自己肯定感は低いが自己承認欲求は強いなど、子育てに対する親の不安定さは、過保護や過干渉、責任転嫁など様々な子育ての弊害へとつながる。そのため、親が自らの感情をコントロールし、子どもの立場に立った接し方をできるようにするなど、家庭の教育力をより高めていくための家庭教育支援が必要⑤⑥である。

##### ウ 様々な困難を抱える家庭へのきめ細かな家庭教育支援

核家族化、共働き、一人親家庭など、家族形態が多様化する中、貧困等の経済的格差や、障がい、傷病などの様々な困難を抱えてしまい、子育てに重大な支障をきたしている家庭や、家庭教育支援の場に参加できない家庭に対して、困難の原因を踏まえたきめ細かな家庭教育支援が必要⑦である。

### (3) 「地域における子どもの育ち」への対応

#### ア 子どもの豊かな感性や考える力の育成

ICTの進展やグローバル化など、社会がめまぐるしく変化する中においても、地域で子どもたちが健やかに成長し、自らの未来を切り拓いていくためには、子どもたちが自分の生まれ育った地域や文化に誇りや愛着を持ちながら、自ら学び、自ら考える力を身につけていくことが必要である。

#### イ 子どもの規範意識や人権意識の育成

インターネット環境の発達により、学校での交流だけでなく、時間や場所、年齢や国籍を問わず誰とでも容易に連絡を取り合うことができようになり、利便性が向上していく一方、実態把握が困難なネット上のいじめや誹謗中傷などが問題となっている中、これまで以上に子どもたちの高い規範意識や人権意識などが求められるため、様々な交流を通して、子どもたちのそれらの意識を高めていくことが必要<sup>③</sup>である。

#### ウ 健やかに成長していくための環境づくり

ICT化や貧困・格差の拡大など、社会環境や家庭環境が変化する中、学校においては将来を見据えた教育が求められるだけでなく、いじめや不登校などの複雑化、困難化する課題への対応<sup>③④</sup>が求められており、その役割は増大している。そのような中で、子どもたちのとりまく課題を解決に導き、子どもたちが健全に成長していくためには、多様な課題を、学校のみ、家庭のみで捉えるのではなく、地域全体の課題として捉え、学校、家庭、地域が連携し、地域全体で包括的に子育て環境を整えていくことが必要である。

### (4) 「職業の変化」 「勤労観の変容」への対応

#### ア 職業の変化に対応していくための学習支援

技術革新による自動化やAIの登場により、10～20年後には、現在の職業の多くが機械に代替可能となり、新たな職業が生まれてくるなど、職業の大規模な変化が見込まれる中、年齢に関わらず社会の変化に則したキャリア形成をしていけるよう、必要な知識や技術を習得できる学習機会へと結びつける支援が必要である。

#### イ 子どもや若者の勤労観や職業観を高める取組

近年、産業・経済の構造的変化や雇用形態の多様化・流動化などを背景として、若者のフリーターや無業者の増加、早期離職などが深刻な社会問題となる中、社会の変化にたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるよう働くことへの関心や目的意識などを高めていくことが必要である。

(5) 「地域のつながりづくり・活性化」への対応

ア 他者と協働して地域社会を支える規範意識・社会性の向上

少子超高齢化による若年層の減少や、周囲の人・地域とのつながりを持たない人の増加などを背景に、地域コミュニティにおいて必要な人材確保が難しい中、個人の力では解決できない様々な地域課題や社会的課題が顕在化している。そのため、地域において人と人がつながりをつくり、様々な課題の解決に向けて他者と積極的に協働していくことができるよう、一人ひとりの規範意識や社会性、人権意識の向上に取り組んでいくことが必要である。

イ 地域理解や郷土愛を通じた地域の一員としての意識の醸成

地域の間関係の希薄化等を背景として地域コミュニティの衰退や崩壊が懸念される中、地域コミュニティが活性化していくためには、就職や進学等により生まれ育った地域を一度離れた人でも地域に戻り、新しく住み始めた人でも地域活動に主体的に参加していくなど、自らの生まれ育った地域、居住する地域への誇りや愛着を持ち、地域の一員としての意識を醸成していくことが必要である。

ウ 誰もががつながり、活躍できる環境づくり

高齢者や障がい者、外国人など、生活様式、心身の状況、文化など、多様な人々が生活する地域において、誰もが、社会のつながりの中で安心・安全に生活し、その中で自らの能力を生かしていくことができるよう、地域の団体・企業・行政等が連携・協力し、人と人、人と多様な主体とのつながりを形成できる環境が必要⑧である。

(6) 「社会全体のデジタル化」 「進展するグローバル化」への対応

ア デジタル化の恩恵を享受するための能力の育成

デジタル化やオンライン化の急速な進展により、様々な利便性が向上する一方、ICTを利用できる者とできない者との間に生じる情報格差は、生活にも影響を及ぼすほど深刻になってきている。誰もがデジタル化による恩恵を受けることができるよう、身近な地域でICTを正しく利活用できる能力を身につけていくことが必要⑨⑩である。

イ ICTに関連した様々なトラブルから自身を守る知識の習得

デジタル化やオンライン化の急速な進展は、利便性の向上だけでなく、ネット詐欺やネットいじめ、情報漏洩など、トラブルの多様化にも拍車をかけている。インターネット上では、容易に被害者にも加害者にもなり得るため、トラブルから自身を守る、巻き込まれないための正しい知識の習得が必要である。

ウ 国際理解、多文化共生に向けた意識の醸成

ICTの進展は、年齢や国籍を問わずにコミュニケーションを可能とし、地域における外国人住人の増加とあいまって、グローバル化はより一層進展している。国籍や人種に関わらず誰もが地域で安心して生活していくことができるよう、生活や文化の違いについて相互に理解を深めながら、地域で共に生活していくための意識を醸成していくことが必要⑪である。

## (7) 「地球規模での自然環境の変化」への対応

### ア SDGsを踏まえた環境への配慮⑩

世界が達成すべき、持続可能な開発目標であるSDGsとして「気候変動」や「海の豊かさ」、「緑の豊かさ」が掲げられている中⑩、社会を構成する一員として、温暖化や海洋汚染、森林減少など、一人ひとりが様々な環境問題の現状を知り、環境への意識を醸成していくことが必要である。

### イ 緊急時に備えた正しい知識の習得

近年、台風等での豪雨に伴う浸水や河川の氾濫、大地震に伴う津波や建物の倒壊など、頻発する大規模な自然災害の被害は甚大であり、さらには、昨今の新型コロナウイルスのような感染症への懸念がある中では、より緊急時の適切な対応が求められることから、緊急時に備えた正しい知識を身につけておくことが必要⑩である。

### ウ 緊急時を想定した各種機関や団体等の連携

緊急時には、様々な情報が行き交う中で、避難の必要性の有無や現在の状況などの適切な情報が求められるとともに、原因となる災害への対応と、避難した方など人への対応を並行して進めなければならないため、警察や消防、市などの各種機関はもちろんのこと、自治会などの地域住民により身近な団体等も含めて連携し、備えていくことが必要⑩である。

## 2 社会教育で進めるべき取組

「社会の要請」として挙げた課題を踏まえ、今後、積極的に進めるべき取組を以下のとおり述べる。

### (1) 学習方法

多様な学習を進めていく上では、特に以下のような学習方法を積極的に活用する。

#### 参加交流型学習による仲間づくり、つながりづくり

学びを通じた交流は、同様の悩みや類似の関心を持つ者同士の助け合いや対話、議論を促し、その中で相互に理解し認め合うことで強いつながり意識が醸成される。つながり意識は仲間をつくり、仲間ができることで不安や悩みを相談・共有できるだけでなく、仲間とともに新たな学習や活躍の場へと結びつくことも考えられることから、高齢者や子育て家庭、青少年など、世代を問わずに取り組む。

また、世代をまたぎ、多様な人々が参加し、交流する場合は、様々な世代の考え方や価値観に触れ、社会性や規範意識、人権意識等を高める場ともなる。

#### 体験活動・体験型学習

体験型学習は、人間の五感を用いて学習するため、高度な内容のものであっても内容がわかりやすく身につけやすいという面がある。また、子どもにとっては、ものづくりや自然体験など、物事を感覚的に捉える体験活動を通して、豊かな人間性や、自ら学び自ら考える力を育むなど、生きる力の基盤をつくり、成長の糧としての役割が期待されている。

### 多様な主体と連携した学習

地域団体や企業、大学など、多様な主体と連携した学習は、地域性や専門性などの特性や強みを学習内容に生かすことができ、質の高い学習に結びつくだけでなく、学習を通して個人と主体とが結びつき、学習者の新たな活動の場や社会的役割の獲得へつながることも考えられる。

また、貧困、虐待、障がいなど、近年、個人の抱える課題が複雑化、困難化する中で、課題解決に向けた学習を進めるためには、福祉関係者や各分野の専門家等、分野をまたがり密に連携した学習を進める。

### ICTを活用した学習

ICTを活用したオンラインでの学習は、時間や場所を問わずに様々な内容を学べることから、育児中や就労中など、学習に時間を割きづらい人も含め、多くの人が気軽に学ぶことができる機会の提供へとつながる。

また、オンライン上での交流が当たり前となってきている中、ICTを利活用する学習によりその能力を身につけ、インターネットを介して多くの人との交流が持てるようになることも考えられる。

## (2) 学習内容

今日的課題や社会的課題の解決に向けては、以下の学習内容について、積極的に取り組む。

### 心身の健康

睡眠や食生活、運動など、生活の中での体調管理についての学びはもちろんのこと、仕事や勉強に対するストレス、あるいは職場、学校、地域の中での人間関係に対するストレスなど、ストレス社会と言われる現代社会で、自身の感情を素直に表現する方法や悩み・不安への対処法の習得、趣味や活動など生きがいつくりにつながる学習機会を提供し、密接に関わる体と心の健康を適切に管理する。

### 防犯意識の醸成やトラブルの回避

高齢者をねらった詐欺や訪問販売、児童をねらった犯罪など、その手口は常に新しくなり、誰もが巻き込まれる危険がある。また、情報化が進展し、インターネット上での犯罪やトラブルも増加する中、防犯の知識やトラブルを回避する術などの学習機会を提供し、多様で新しくなる犯罪やトラブルなどから自身や家族を守る。

### 家庭教育に関する意識の醸成

男性、女性を問わず、子育てに必要な知識や子どもとの関わり方などについての学習機会を提供し、子育てに関する正しい知識の習得や男性の育児参加を促すとともに、子育てをする親の自己肯定感の向上や、自らの感情をコントロールして統制できるようにするなど、子育てに弊害を及ぼしかねない感情や意識の不安定さの解消に向けた学習機会の提供や、他者とのつながりの形成を支援する。

### 職業の変化等を踏まえたキャリア教育・リカレント教育

子どもが様々な職業や金銭感覚等についての理解を深め、社会を知ることで、職業観や勤労観を育てるとともに、現在就労している者や定年を迎えた高齢者等が、学びを通して今後の職業の変化を見通し、必要に応じて職業や就労に関する知識・技術を身につける。

### 人権意識や社会性を育む人権教育

疾病や障がい、異なる文化などの正しい知識を学ぶ機会の提供とあわせ、他者との違いを理解し、受け止める意識を醸成することで、多様な人々が生活する地域の中で、他者を思いやり、協働していくための社会性を身につける。また、顔が見えない中でも連絡をとることができるインターネットが普及する中、他者を思いやる人権意識等は、誹謗中傷などをはじめとしたインターネットトラブルを避けることにもつながる。

### ICTを安全に利活用できる情報教育

インターネットが生活の単なるオプションから、生きていくための命綱にもなり得る時代で、インターネットやパソコンの使い方を学ぶ機会を提供し、これまでICTを利用できなかった人が利用できるようにする。また、利用できる人でも、ワンクリック詐欺やコンピューターウイルス、個人情報への漏洩などの被害にあう可能性や、誤った情報を正しいと思い込み、それによってネット上で加害者となることもある中で、ICTに関する正しい知識、適切な情報の利活用についての学習機会を提供し、安全にICTを活用できるようにする。

### 地域理解の促進や郷土愛の醸成

自分が住む地域の文化や伝統行事、自然環境などを深く理解し、地域に誇りや愛着を持つことは、人と人とが地域でつながる基盤となる。出身地や国籍等に関わらず、誰もが自らの住む地域を深く学び、地域の持つ魅力を発見・再認識するとともに、抱える課題を見つけ、多様なつながりをつくりながら課題解決に積極的に取り組むきっかけを作る。

### 環境理解・環境保護と災害等への危機管理能力の向上

世界規模で起きている環境問題に対し、一人ひとりが向き合うため、世界的な環境問題から身近な自然環境、日常生活の中での環境への影響などを学習することで、環境への配慮や保護の意識を高める。

また、身近な自然環境の理解は、頻発する豪雨や暴風、地震による河川の氾濫や土砂崩れ、建物の倒壊など、起こり得る災害を想定し、事前に備えることにもつながるため、環境理解とあわせ、災害等緊急時の正しい知識を学ぶ機会を提供し、自身の命や、周囲の人々の命を守る危機管理能力を高める。



### (3) 体制づくり

社会教育行政として、学びやつながり、活動を通して、目的に応じた体制づくりに取り組む。

#### **誰もがつながり、地域で活躍できる機会を創出する体制**

子どもや高齢者、障がい者、外国人など、年齢や性別、心身の状況、人種の違いに左右されず、地域の中での様々な学習機会や地域活動の実施等を通して、様々な人がつながる体制をつくる。

(主に連携を図っていくことが望ましい主体)

- ・自治会やまちづくり組織等の地域団体
- ・各子育て家庭、PTAや子ども会
- ・高齢者や障がい者に関する福祉団体、福祉施設
- ・国際交流に関する団体
- ・地域内の企業 など

#### **地域全体で子どもたちを見守り育む体制**

学校教育の役割がより一層増大する中、現在の「魅力ある学校づくり地域協議会」のように、学校・家庭・地域の様々な人や団体が連携した学校教育の支援や、家庭・地域の教育力向上等に取り組む体制は大変重要である。

また、いじめや不登校など、子どもたちの深刻な問題は、学校生活の中だけで解決するものではなく、家庭の経済状況や過保護、過干渉、虐待など、ケースごとに様々な背景の中で生じる。そのため、学校と連携した家庭教育支援はもちろんのこと、就学前の幼少期からの家庭教育支援、学びや相談の場に自らアクセスすることが困難な家庭へのアウトリーチ型家庭教育支援など、福祉や保健など様々な分野に精通した人材や団体とも連携した積極的な家庭教育支援を進める体制をつくる。

(連携を図っていくことが望ましい主体)

- ・小中学校
- ・各子育て家庭、PTAや子ども会
- ・自治会やまちづくり組織等の地域団体
- ・学区内の保育園や幼稚園、高校、大学等の学校教育関係
- ・学区内の企業
- ・生活困窮や障がい、傷病などに詳しい福祉関係者、福祉団体
- ・心や体の健康に詳しい保健師や医療関係者 など

### 災害などの緊急時に備えた体制

頻発する大規模な自然災害をはじめ、地域で事故や事件が発生した場合などの緊急時に、連携をとりあう必要がある各主体が、学習や活動を通して事前にお互いの役割を確認し合い、自身の地域に災害や事故等が起きた場合の対応や、他の地域で起きた場合の支援など、緊急時に備える体制をつくる。

(連携を図っていくことが望ましい主体)

- ・自治会やまちづくり組織等の団体
  - ・学校やPTA等の子どもに関わる機関、団体
  - ・警察や消防、危機管理に関わる行政機関
  - ・各避難所
- など

### 3 おわりに

この提言は、変化し続ける社会の中で生じる様々な社会的課題、今日的課題に対し、人づくりやつながりづくりなどの社会教育・生涯学習の振興を通してどのように対応していく必要があるかを取りまとめたものである。

デジタル化や情報化により誰もが膨大な情報をリアルタイムで取得でき、考え方や価値観の多様化に拍車がかかる中、課題には様々な要因が複雑に絡み合うようになってきており、分野ごとの対応では課題の全貌を把握することすら難しく、簡易的な連携ではその深刻さに対応できなくなっていると考ええる。

そのような中、今後も社会教育行政としての役割を果たしていくためには、教育分野のみに捉われず、福祉や医療、雇用、環境、ICTなど、様々な分野と、それぞれの役割に応じた密な連携を図り、一体的に課題の根底にアプローチしていく体制をつくることが大変重要であることから、分野横断的に人づくりやつながりづくり、地域づくりが推進され、全ての人々が地域の中で安心して学び、活動していけることを期待し、提言するものである。

#### 宇都宮市社会教育委員

菅野 光広 ， 鈴木 克伸 ， 鈴木 恵治， 今井 政範， 新妻 克隆，  
小林 純枝 ， 松本 弘元 ， 石塚 勝 ， 福田 治久， 大森 幹夫，  
小林 剛 ， 深津 佐由美， 熊倉 悦子， 小池 操子， 河田 隆 ，  
佐々木 一隆， 若園 雄志郎， 増淵 幸男， 内藤 良弘， 今井 恭男  
(順不同)

「社会の要請」と対応の結びつきのイメージ

1 社会の要請	2 社会の要請への対応		
	(1) 学習方法	(2) 学習内容	(3) 体制づくり
(1) 人生100年時代の到来			
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 健康寿命や防犯に関する学習機会の充実</li> <li>イ 他者との人間関係の構築、地域における多様なつながりの形成</li> <li>ウ いつまでも社会の一員として活躍できる環境や機会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加交流型学習による仲間づくり、つながりづくり</li> <li>・多様な主体と連携した学習</li> <li>・ICTを活用した学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康</li> <li>・防犯意識の醸成やトラブルの回避</li> <li>・職業の変化等を踏まえたキャリア教育・リカレント教育</li> <li>・人権意識や社会性を育む人権教育</li> <li>・ICTを安全に利活用できる情報教育</li> <li>・地域理解の促進や郷土愛の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もがつながり、地域で活躍できる機会を創出する体制</li> <li>・地域全体で子どもたちを見守り育む体制</li> <li>・災害などの緊急時に備えた体制</li> </ul>
(2) 子育て環境の変容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 育児への孤立感の解消に向けたつながりの形成</li> <li>イ 家庭の教育力を高める家庭教育支援の推進</li> <li>ウ 様々な困難を抱える家庭へのきめ細かな家庭教育支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加交流型学習による仲間づくり、つながりづくり</li> <li>・多様な主体と連携した学習</li> <li>・ICTを活用した学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康</li> <li>・家庭教育に関する意識の醸成</li> <li>・人権意識や社会性を育む人権教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体で子どもたちを見守り育む体制</li> </ul>
(3) 地域における子どもの育ち			
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 子どもの豊かな感性や考える力の育成</li> <li>イ 子どもの規範意識や人権意識の育成</li> <li>ウ 健やかに成長していくための環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加交流型学習による仲間づくり、つながりづくり</li> <li>・体験活動、体験型学習</li> <li>・多様な主体と連携した学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康</li> <li>・防犯意識の醸成やトラブルの回避</li> <li>・職業の変化等を踏まえたキャリア教育・リカレント教育</li> <li>・人権意識や社会性を育む人権教育</li> <li>・ICTを安全に利活用できる情報教育</li> <li>・地域理解の促進や郷土愛の醸成</li> <li>・環境理解、環境保護と災害等への危機管理能力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体で子どもたちを見守り育む体制</li> </ul>
(4) 職業の変化、勤労観の変容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 職業の変化に対応していくための学習支援</li> <li>イ 子どもや若者の勤労観や職業観を高める取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動、体験型学習</li> <li>・多様な主体と連携した学習</li> <li>・ICTを活用した学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業の変化等を踏まえたキャリア教育・リカレント教育</li> <li>・人権意識や社会性を育む人権教育</li> <li>・ICTを安全に利活用できる情報教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もがつながり、地域で活躍できる機会を創出する体制</li> <li>・地域全体で子どもたちを見守り育む体制</li> </ul>
(5) 地域のつながりづくり・活性化			
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 他者と協働して地域社会を支える規範意識・社会性の向上</li> <li>イ 地域理解や郷土愛を通じた地域の一員としての意識の醸成</li> <li>ウ 誰もがつながり、活躍できる環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加交流型学習による仲間づくり、つながりづくり</li> <li>・体験活動、体験型学習</li> <li>・多様な主体と連携した学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識や社会性を育む人権教育</li> <li>・地域理解の促進や郷土愛の醸成</li> <li>・環境理解・環境保護と災害等への危機管理能力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もがつながり、地域で活躍できる機会を創出する体制</li> <li>・災害などの緊急時に備えた体制</li> </ul>
(6) 社会全体のデジタル化、進展するグローバル化			
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア デジタル化の恩恵を享受するための能力の育成</li> <li>イ ICTに関連した様々なトラブルから自身を守る知識の習得</li> <li>ウ 国際理解、多文化共生に向けた意識の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動、体験型学習</li> <li>・多様な主体と連携した学習</li> <li>・ICTを活用した学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯意識の醸成やトラブルの回避</li> <li>・職業の変化を踏まえたキャリア教育・リカレント教育</li> <li>・人権意識や社会性を育む人権教育</li> <li>・ICTを安全に利活用できる情報教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もがつながり、地域で活躍できる機会を創出する体制</li> </ul>
(7) 地球規模での自然環境の変化			
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア SDGsを踏まえた環境への配慮</li> <li>イ 緊急時に備えた正しい知識の習得</li> <li>ウ 緊急時を想定した各種機関や団体等の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動、体験型学習</li> <li>・多様な主体と連携した学習</li> <li>・ICTを活用した学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯意識の醸成やトラブルの回避</li> <li>・地域理解の促進や郷土愛の醸成</li> <li>・環境理解・環境保護と災害等への危機管理能力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害などの緊急時に備えた体制</li> </ul>



# ( F A X 送信表 )

## 意見記入票

宇都宮市教育委員会事務局

生涯学習課生涯学習グループ 田井あて

( F A X 6 3 2 - 2 6 7 5 )

提言書 (案) への御意見

氏 名	
-----	--

(意見)

気づいたことや内容に反映してもらいたい要望などございましたら、ご記入ください。

提出：令和3年4月2日(金)まで



## 令和 2 年度 魅力ある学校づくり地域協議会事業の実施状況について

## 1 趣旨

「魅力ある学校づくり地域協議会」（以下「協議会」）が取り組む事業の実施状況等について報告するもの

## 2 事業の概要

## (1) 目的

学校・家庭・地域等が一体となって、未来を拓く心豊かでたくましい宮っ子を育むために、協議会の活動を通して、地域の教育力を生かした「学校教育の充実」と地域ぐるみの子育てによる「家庭・地域の教育力向上」を図る。

《参考》 魅力ある学校づくり地域協議会について

- 学校・家庭・地域・企業が一体となって、子どもたちのために何ができるかを考え実践する組織として、全ての小中学校区に設置（R 2 においては 9 3 協議会。R 3 からは新設小 1 校を含む 9 4 協議会となる予定）
- 各協議会においては、学校や地域の実情に応じて、以下の取組を実施
  - ① 活力ある学校づくりへの参画
    - ・ 学校の課題や取組状況など学校運営全般に関する事項についての意見交換
    - ・ 学校長が作成する基本方針の案についての意見交換
    - ・ 学校長の基本方針に基づき、校内体制充実や特色有る学校づくりの実現のための職員の配置に関する意見交換
    - ・ 学校教育に協力が可能な企業・事業所に関する情報提供
  - ② 地域の教育力を生かした学校教育の充実のための取組
    - ・ 学習支援に協力する地域人材のコーディネート
    - ・ 体験活動や校外活動を実施する際の協力者の募集
    - ・ 教室内外の環境整備や教材作成への連携・協力
  - ③ 地域ぐるみの児童生徒の健全育成・安全確保のための取組
    - ・ 学校・地域が一体となった、地域ぐるみのあいさつ運動の実施
    - ・ 登下校時の安全確保のための立哨、巡回パトロールの実施
  - ④ 家庭・地域の教育力向上のための取組
    - ・ 学校施設を活用した子育て講座や食育等に関する講座の実施
    - ・ 子ども向けプログラムや地域フォーラム、異世代交流事業の実施

## (2) これまでの経過等

- 平成 18～20 年度 小中学校区で協議会を設置(小規模特認校を除く全校に設置)
- 平成 23 年度～ 「地域はみんなの学校づくり事業」の実施 (H25 度名称を改称)
- 平成 28～29 年度 コミュニティ・スクール導入局内検討及び方向性決定
- 平成 30 年度 地域協議会の会議の充実(市立学校の管理運営に関する規則の改正)  
学習支援事業（地域未来塾）の導入推進
- 令和元年度 学校運営参画機能強化の段階的实施

### 3 令和2年度の実施状況

#### (1) 協議会の活動

全93協議会が地域の実情に応じた活動を実施

#### (2) 協議会の活動に対する支援

「魅力ある学校づくり地域協議会支援会議」を活用し、地域の実情に応じた支援を実施

ア 総合的な連絡調整を担う地域コーディネーターの養成

- ・ 研修会・情報交換会の実施（2回/年）

イ 先進事例の情報提供

- ・ 「魅力ある学校づくり地域協議会通信（みりょく通信）」発行（2回/年）
- ・ 「魅力ある学校づくり地域協議会活動事例集」の発行（11校紹介）

ウ 協議会活動の普及啓発

- ・ 広報うつのみや特集掲載（11月号）
- ・ こどもるっくる掲載（3月号）
- ・ 中学生を対象とした放課後等の学習支援事業「地域未来塾」のモデル事業を実施（1回/年）

#### (3) 事業実施における成果

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための学校休業期間における活動の自粛や縮小があったが、地域の大人が子どもの育ちに係る活動への参加を通して、児童生徒との交流が進み、「地域ぐるみの子育て」意識の醸成を図るとともに、地域の教育力向上に寄与することができた。
- ・ 地域住民が学校支援ボランティアとして、学校教育支援活動や校内環境整備活動等に参加することを通して、学校教育の更なる充実を図ることができた。
- ・ 学習支援事業「地域未来塾」の実施校拡大に向けて、事業の周知やモデル事業の実施、学習支援員の確保等に努めたことにより、実施校が昨年から3校増え、計10校となり、生徒の学習習慣の定着や基礎学力の向上に寄与することができた。  
（地域未来塾実施校：陽西中、横川中、瑞穂野中、豊郷中、国本中、雀宮中、鬼怒中、宝木中、若松原中、古里中 下線はR2からの実施校）

#### (4) 課題等

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止策と活動の両立（3密を回避したうえでの実施など）
- ・ 活動参加者・協力者の人材確保（地域コーディネーターの複数配置、学校支援ボランティアの裾野拡大等）
- ・ 協議会活動の更なる活性化（先進事例の普及啓発、組織体制の強化等）
- ・ 学習支援事業「地域未来塾」の実施校拡大
- ・ 国が推進するコミュニティ・スクール導入の検討



## 令和2年度 家庭教育支援事業の実施状況について

## ◎ 趣旨

本市の人づくりにおいて重要な役割を担う家庭の教育力向上に係る事業の実施状況について報告するもの

## 1 基本的な考え方

子どもを育てる基本的な主体は家庭にあり、親自身が家庭や親の役割、親としての責任、子どもとのより良い関わり方などを自覚しながら、子どもの教育に取り組んでいく必要がある。こうした中、本市では、家庭の教育力向上を目指して、親としての学びを促進する「親学」を推進するとともに、地域において家庭教育支援に関する活動を行う家庭教育支援活動者の育成や支援、企業に対する意識啓発を行うなど、学校・家庭・地域・企業等と連携した家庭教育支援事業の推進に取り組んでいく。

## 2 令和2年度実施状況

## (1) 親学出前講座について

目 的	学校等からの依頼で、保護者の集まる機会に、市社会教育主事等が親学に関する講話等を行うことにより、保護者の家庭教育に対する意識の高揚を図り、もって家庭の教育力向上を図る。
実施期間	令和2年9月～令和3年2月 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため8月まで中止)
実績及び成果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施講座数 26件、参加者数 595名</li> <li>・12企業等との連携講座を含め、57のプログラムを提供</li> <li>・講話やワークショップ、実技など多様な形態で実施</li> <li>・結果満足度調査(参加者アンケート) 回答数 281件 とてもよかった+まあまあよかった・・・約98%</li> <li>・主な意見 ア) 具体的な子どもへの接し方等が聞けて、参考になった。 イ) 「反抗できたら一安心」という言葉で、気持ちが楽になった。 ウ) 子どもの話をよく聴くことを心掛けたいです。</li> </ul> <p>【参考】令和元年度の実績について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座数 131件、参加者数 5,191名、提供プログラム数 60</li> <li>・結果満足度調査 約96%</li> </ul>

## (2) うつのみや版親学と子どもの情報誌「こどもるっくる」について

目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの健やかな成長のために、保護者に知っておいてほしいことや学んでほしいことを伝えるとともに、親学に関する事業等を紹介する。</li> <li>・子どもが参加できる各種講座やイベント等に関する情報を提供し、子どもたちの体験活動を推進する。</li> </ul>
対 象 者	中学校3年生までの子どもをもつ保護者と児童生徒
発行部数	66, 500部, 12ページ(冊子型)
配布方法	保育園や幼稚園, 小中学校, 公共施設等を通じた配布
発 行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第19号 令和3年3月発行</li> <li>テーマ 「親として知っておきたい 令和時代の子育てキーワード」</li> </ul>
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第19号を活用し、親子関係の更なる充実と大切さを親子で再認識するための取組とする「親子のさずなガッチリ運動・第3弾」を周知した。</li> <li>・子育てに関するクイズやクロスワードを作成するなど、親子で楽しめる紙面構成となるよう工夫した。</li> </ul>

### (3) 家庭教育支援活動者について

目 的	地域ぐるみで子育て中の親を支える取組の充実を図るため、身近な地域において家庭教育支援に関する活動者として、きめ細かな支援を行う。
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親学出前講座におけるファシリテーターや親子参加型講座の講師として、子育て中の親を対象とした学びの場の提供や交流機会の促進</li> <li>・家庭教育に関する軽微な相談対応</li> <li>・子どもの家等における親同士の交流機会の場の提供</li> </ul>
登録者数	・家庭教育支援活動者 登録者数 27名（令和3年2月末現在）
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの家における親子講座の企画運営（陽南小子どもの家 1回）</li> <li>・研修（感染防止対策を講じたうえで実施） 全5回</li> </ul>
その他	・令和2年度は、児童虐待に関する知識や早期発見のポイントや、ファシリテーションの基礎についての内容で研修を実施した。

### (4) 訪問型家庭教育支援事業について

目 的	家庭教育支援を必要とする保護者等に対して、個別の家庭訪問によるきめ細かな寄り添う支援を通して、家庭教育に関する「届ける支援」を行う。
手 法	・庁内関係課との連携による既存事業を活用した家庭訪問
連携先及び実績等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携先① 「すこやか訪問事業」（子ども家庭課すこやかグループ）</li> <li>・対象者 「すこやか訪問事業」対象者において、4歳児の未就園児の子をもつ家庭に対して、事業案内及び情報誌を配付</li> <li>・実績 すこやか訪問対象件数 85件 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 配布対象家庭件数 10件</li> <li>⇒ 訪問型支援実施件数 0件（令和2年12月末日現在）</li> </ul> </li> <li>・連携先② 「満4歳未就園児全戸訪問事業」（子ども家庭課子ども家庭支援室）</li> <li>・対象者 幼稚園や保育園に通っていない満4歳児家庭</li> <li>・実績 対象児童数 134名 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 子ども家庭支援室訪問件数 51件</li> <li>⇒ 訪問型支援実施件数 0件（令和3年2月末日現在）</li> </ul> </li> </ul>

## 3 今後の取組

- ・ 家庭教育に関心が低い保護者、仕事など様々な事情により講座等に参加しづらい保護者などへの親学の推進のため、学校等における参観日や就学时健康診断、企業内における研修会など、保護者が多く集まる、参加できる機会を活用した親学の推進に努めるとともに、子ども家庭課の各種訪問事業との連携を継続しながら、より効果的な訪問型支援の手法等について検討する。
- ・ 家庭教育支援活動者の育成については、講座の企画運営に関する技能や訪問型支援に必要な知識等など、今後も地域における家庭教育支援の充実に向けた効果的かつ実践的な研修等を実施するとともに、新規の支援活動者となる人材の確保及び育成に努める。

## 令和 2 年度 宇都宮市民大学の実施状況について

## ◎ 趣旨

令和 2 年度宇都宮市民大学の実施状況について報告するもの

## 1 市民大学の概要

市民大学は、市民の生涯学習における高度で専門的な学習要求に応え、講座企画・運営ボランティアスタッフによる市民企画運営型の講座や市内の大学との連携による専門性の高い講座を実施する事業であり、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座であることから、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える講座を開催する。

## 2 専門講座

- ・ 前期講座：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止  
⇒ 中止した講座については、大学連携講座は後期に実施し、その他の講座は令和 3 年度に実施することとした。
- ・ 後期講座：3密に回避するなど各種の感染防止策を講じたうえで実施  
(別紙 1 参照)

## 3 公開講座

「東日本大震災から 10 年を迎えて」として、令和 3 年 3 月 6 日(土)にフリーアナウンサー笠井信輔氏による講演会(定員 500 名)を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止した。

⇒ <代替事業>

「とちぎテレビ 宇都宮市民大学 特別企画」(別紙 2 参照)



宇都宮市民大学(後期講座)の実施状況について

コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講者数	修了者数 (修了率)	講座の評価	(参考)受講者の感想・意見
I	天皇家と栃木県民と自然 ～栃木県の自然を愛される歴代天皇のお姿～ (全6回)	足利大学工学部・共通教育センター 講師 大沼 美雄 栃木県立博物館 特別研究員 星 直斗 日光国立公園那須平成の森フィールドセンター長 若林 正浩 那須・塩原郷土史家 臼井 祥朗 宮内庁御料牧場 場長 菊池 淳志	10/26～ 12/14	(30) [83] 44	43 (97.7%)	定員を上回る受講申込があり、天皇家への関心の高さがうかがえた。講師が持参した資料(実録や官報、研究記録の内容を転記したもの)をもとに、県内所在の御用邸の沿革や、歴代天皇がどのように御用邸を御利用されたのかについて学ぶことができた。講師が天皇家との関わりが深い方々だったので、資料からわかること以外の話も聞くことができ、受講生にとって大変満足度の高い講座となった。また、受講生は天皇家と栃木県との関わりを学んだことで、皇室の方々の願いを未来にどう繋げていくのかを考える機会となった。	・天皇家と栃木県がとても深く関わっていることが良く分かって、大変勉強になった。 ・近代の天皇・皇室の歴史や人間性など、今まで知らなかったことを学ぶことができた。 ・皇室関係の事は知らされていないことが多いので、色々聞いて楽しかった。 ・他県から引っ越してきたので、栃木県と天皇家や御用邸に興味があった。コロナ終息後に訪ね歩きたいと思う。 ・地元において、天皇家と栃木県がこんなにも深く繋がっていることは知らなかった。是非、訪ねてみたいと思う。
I	大谷石のことをもっと知ろう ～石の街「うつのみや」であるために～ (全7回)	宇都宮市教育委員会事務局文化課 主幹 今平 利幸 宇都宮市文化財保護審議委員会 委員長 橋本 澄朗 委員 大嶽 浩良 宇都宮美術館 専門学芸員 橋本 優子 大谷石石材協同組合 理事長 石下 光良 NPO法人大谷石研究会 理事長 塩田 潔 株式会社テイクス設計事務所 代表取締役 武井 貴志	10/29～ 12/10	(30) [40] 39	36 (92.3%)	平成30年日本文化遺産として認定された「大谷石文化」について、歴史や文化的側面はもとより、最新の採掘技術や運搬方法の変遷、建築資材としての大谷石など多様な視点から学んだ。大谷石の文化を古代から紐解き、大谷地域が古代からいかに重要な地域であったかを展開し、ふるさとへの誇りを醸成するものだった。全体を通して、「大谷石文化」が日本遺産に認定されたストーリーを理解し、身近な大谷石の知識を深める事で、ふるさとの魅力を再発見する機会となり、受講生にとって満足度の高い講座になった。	・大谷石の文化や歴史をわかりやすく学べて大変参考になった。 ・大谷巡りをする視点で受講したが、発見がいっぱいあった。 ・宇都宮の街全体を「大谷石」のイメージで街づくりができたらしいと思った。 ・帝国ホテル建設の話に大変興味を持ち、関連本を読んで学んだ。 ・大谷石文化を後世に伝えるため、文献のみならず「モノ」の保存が重要であると感じた。
II	現代社会を読み解く知識と考え方 ～日々の暮らしをより豊かにするコツ～ (全7回) [作新学院大学・女子短期大学部連携講座]	作新学院大学女子短期大学部 教授 西田 直樹 准教授 小林 育斗 准教授 中川 仁美 准教授 木村 雅史 特任講師 石川 順章	10/26～ 12/7	(30) [58] 42	37 (88.1%)	日々の暮らしをより豊かにするコツを、具体的な資料やデータから読み解く講座で、身近なテーマから選ばれた内容は、すぐに役立つものが多くあった。コロナ禍で在宅時間が長い現在、その場で、タオル1本で簡単にできる体操や、身体活動強度の指標(メッツ)の説明は、今後の体力維持・向上への動機づけになった。「地域における居場所づくり」では、コミュニティカフェや高齢者サロンの実践例などの紹介もあり、話し合いは大いに盛り上がった。受講生の今後の社会活動の広がりに繋がる学びになった。	・お金に対する考え方、お金を「かける」「かかる」が参考になった。 ・「居場所づくり」は今後の考え方として大変良かった。 ・多くの人と関わり、いろんな話の中から必要な情報を取り入れていく必要があると思った。 ・今さらと思いましたが、講座を受講して納得し、深く心に残るものがありました。 ・体力づくりの内容は今後の生活改善に大いに役立つ講座だった。 ・全般的に焦点がはっきりしない講座だった。
II	マンガと日本人 ～マンガ媒体の発展・人の心を動かすメカニズム～ (全6回) [文星芸術大学連携講座]	文星芸術大学 マンガ専攻 教授 堀江 一郎	10/30～ 12/11	(30) [24] 21	20 (95.2%)	日本マンガの歴史をたどり、マンガからテレビアニメ、映画へと媒体を変え、日本のマンガが世界的に受け入れられるようになった経緯や、今日の日本マンガの隆盛とこれからの課題などにも言及し、わかりやすい内容だった。情熱的な講義と編集者として関わった講師にしか知りえないマンガ家の逸話なども披露し、マンガに興味のある受講生にとっては満足度の高い講座となった。講義終了後には、講師を囲んで文星芸術大学での公開講座の開催を要望する姿も見受けられ、今後の学びへの発展が期待できるものとなった。	・ビジネスマンの視点からも興味深く聞いた。オンライン受講でより多くの人に届けてもらいたい。 ・熱意ある先生の指導が素晴らしい。現在の活力あるマンガ文化の勢いがそのまま伝わった。 ・とても楽しく、ためになる講座だった。知らないことを知ることが豊かに生きる事だと思った。第2弾、第3弾を期待する。 ・マンガ好きな息子にも教えてあげたい。 ・マンガやアニメを見る視点が変わった。趣味仲間ができた。
III	日本遺産「かさましこ」の世界 ～笠間焼・益子焼を極める～ (全7回)	益子町副町長・益子陶芸美術館長 横田 清泰 茨城県陶芸美術館 副主任学芸員 飯田 将吾 学芸員 芦刈 歩 笠間焼伝統工芸士・陶芸家 額賀 章夫 栃木県産業技術センター窯業技術支援センター 主任研究員 塚本 準一 益子陶芸美術館 学芸員 松崎 裕子 陶芸家 岩見 晋介	10/29～ 12/10	(30) [35] 32	28 (87.5%)	かつて笠間と益子が宇都宮氏の領地であり、同じ文化圏であった事から「兄弟産地」として今回の日本遺産認定に至った経緯に始まり、陶芸美術館の学芸員からは両産地の焼物の歴史や作品の特徴、両産地を代表する陶芸作家の映像を見ながら詳しい説明があった。また、現役陶芸家からは、海外展開など高度成長期とは違う視点も必要になった現状が語られ、経済と切り離せない産業としての側面についても学ぶ機会となった。受講生からは講座終了後訪れることを楽しみにしたいとの声があり、さらに深い学びに繋がる講座となった。	・日本遺産にはストーリーがあると知りました。 ・Web販売、ネット情報が作家の生き残りに重要なことを知った。 ・笠間焼と益子焼の歴史について、理解することができた。 ・窯業界の厳しい現状を知った。 ・益子・笠間の歴史を系統立てて知る事ができた。この2つの産地がどこに向かおうとしているかの説明が物足りなかった。 ・濱田庄司が益子を持ち上げたのではなく、益子の気質が濱田を魅了し、我々を引き付けていると思った。
III	不朽の名作には秘密がいっぱい ～あなたの知ってる西洋美術の世界?～ (全6回)	文星芸術大学 名誉教授 小林 利延	10/30～ 12/11	(30) [93] 46	41 (89.1%)	定員を上回る受講申込があり、絵画への関心の高さがうかがえた。多くの人々が一度は目にしたことのある名画について、歴史と画家の一生の視点から学ぶ講座であった。講師が録画・編集した映像と、最新の研究結果を基にした講義により西洋美術について詳しくない方でも学習内容を理解しやすかったと思われる。一方で、映像の視聴時間が長かったことから、西洋美術の知識を持っている人にとっては、多少物足りなさを感じた可能性がある。西洋美術を鑑賞する際に参考になる知識を得ることができ、今後の学びに繋がる有意義な講座となった。	・説明とともに画像が拝見でき、わかりやすかった。 ・心が豊かになった。知識を持って観る楽しみを知ることができた。 ・大学の授業を受けているようで楽しかった。 ・DVDによる説明も理解を深めるのに大きな成果があったと感じているが、先生の説明がもう少し欲しかった。 ・視点を変えて絵画を観るのも楽しいと思った。 ・あまり興味がなかったが、色々な絵画に触れて、多くの事を知ることができた。
【コース名】 I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る教養コース			募集定員	180人	【総合的な評価】 新型コロナウイルス感染防止の観点から前期専門講座は中止となったが、後期専門講座については、3密を回避するなど各種の感染防止策を講じ実施することができた。コロナ対策のため、定員を30名に減らすも、6講座中5講座は定員を超える申込みがあり、キャンセルを見込むなど可能な限り定員を増やし受講決定をした。 コロナ禍ではあったが、各講座とも欠席者やキャンセルは少なく修了率は例年と同水準の91.5%となった。各講座とも受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容であったことから、満足度の高い講座提供ができたと考察される。		
			応募者数	333人			
			受講者数	224人			
			修了者数	205人			
			修了率(修了者/受講者)	91.5%	【今後の課題】 コロナ禍でも安心して受講できる環境整備等の検討。		

※修了者数は、4分の3以上の出席者



とちぎテレビ 宇都宮市民大学 特別企画  
「東日本大震災から10年 あの日、僕は・・・」番組放映について

◎趣旨 とちぎテレビ 宇都宮市民大学 特別企画番組の放映について報告するもの

1 「とちぎテレビ宇都宮市民大学特別企画」について

(1) 経緯

当初は、「宇都宮市民大学公開講座『東日本大震災から10年を迎えて』」として、令和3年3月6日(土)にフリーアナウンサー笠井信輔氏による講演会(定員500名)を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、多くの市民が集まる講演会の開催は中止し、代替事業として、とちぎテレビによる特別番組を放映することとした。

(2) 番組概要

番組名称 とちぎテレビ 宇都宮市民大学 特別企画  
「東日本大震災から10年 あの日、僕は・・・」  
放送日時 令和3年3月10日(水) 20:00～21:00  
※東日本大震災から10年となる3月11日の前夜に放送  
※再放送 3月14日(日) 20:00～21:00  
出演者 笠井 信輔氏(フリーアナウンサー/元フジテレビアナウンサー)  
篠田 和之氏(MC)  
番組内容 東日本大震災発生直後から被災地へ赴き、被災地の状況を伝え続けてきた笠井氏へのインタビュー



東日本大震災から10年  
～3.11これからも～

とちぎテレビ 宇都宮市民大学 特別企画  
『東日本大震災から10年 あの日、僕は…』

放送 3月10日 水 20:00～21:00  
(再放送) 3月14日 日 20:00～21:00

出演 笠井 信輔(フリーアナウンサー)・篠田 和之(MC)

未曾有の被害をもたらした東日本大震災…『3.11』から10年。被災直後、現地からのリポートを続けた元フジテレビアナウンサー・笠井信輔さんが出演。当時の記憶を忘れることなく、県民に、後世に、『伝える』とは何か?『命』とは『防災』とは何か?お話をうかがいます。

(とちぎテレビ番組ガイド3月号)

2 事業の評価について

- ・ 代替事業となったが、より多くの市民に市民大学を周知できる機会となった。
- ・ 震災から10年という節目に、貴重な学びの機会を提供することができた。

## 令和 2 年度 人材かがやきセンター主催講座の実施状況について

## ◎ 趣 旨

令和 2 年度人材かがやきセンター主催講座の実施状況について報告するもの

## 1 人材かがやきセンター主催講座の概要

第 3 次地域教育推進計画に基づき、関係者向けの研修や地域に貢献できる人材の育成事業に加え、市民一人ひとりの関心や活動レベルに応じた講座、今日的課題に対応した講座を体系的に実施する。

## 2 実施状況

- (1) 開催日時 令和 2 年 8 月 2 7 日（木）～令和 3 年 3 月 2 6 日（金）
- (2) 実施講座数 9 講座（全 1 回～全 6 回の講座）
- (3) 延べ受講者数 3 2 3 名（未実施講座分を除く）

## 3 講座実績（別紙参照）





No.	講座名 (開講数)	概要	講師	開催日	〔定員〕 延べ受講者数	講座の評価	(参考) 受講者の感想等
1	《Vスタッフ企画》 「コロナにまけない人とのつながり方」を 学んでみませんか (全1回)	Vスタッフ企画講座枠。新たなソーシャルディスタンスでのより良いコミュニケーションの在り方を学び、コロナにまけない、人とのつながり方を考える。	①宇都宮共和大学 子ども生活学部 教授 杉本 太平	①8/27 (木)	(30) 5	・3密を回避するなど各種の感染防止策を講じ、今年度初の主催講座として実施することができた。 ・コロナ禍での新たなソーシャルディスタンスにおけるより良いコミュニケーションとして、新しいコミュニケーションのスキル向上、意識して避けたい行動などを理論的に学び、言葉を使用しないコミュニケーション・ワークも行い、今まさに必要とされる技能を学ぶ機会を提供することができた。	・本日は今まさに求められているスキル・考え方について勉強することができ有意義な時間だった。 ・新しい人間関係が成熟することの大切さを実感でき、改めて家族や友人を大切にしようと思った。 ・コロナ禍での開催にふさわしい内容だった。
2	オトナ世代を楽しむために ～未来の「わたし」をカタチにしよう～ (全2回)	主に40～50代を対象に、充実した前向きな生き方を目指すため、自己啓発的な内容や時事的な話題などについて、様々な切り口から学ぶ教養講座	①文星芸術大学 マンガ専攻 教授 堀江 一郎 ②光琳寺 副住職 井上 広法	①9/4 (金) ②9/25 (金)	(30) 44	・受講生には検温、手指の消毒等、協力をお願いし、会場の窓、ドアは終始開放したまま実施した。 ・第1回について、受講生の「マンガ」に対する思い入れは各人それぞれの様子であったが、講座中は講師の話熱心に聞き入り、昭和からのマンガ作品を紹介されると、懐かしそうに頷く姿が見られた。 ・第2回は、コロナ禍で、誰にも漠然とした不安がある中で、マインドフルネスについての講座であったことで、受講生からの支持を得られたものと思われる。	①先生から見せていただいたマンガのコマから、その時代に自分がどんな風に生きていたか、感じていたか、など一瞬でその頃の自分に戻ることができた。 ①マンガは心の酒であるというフレーズに納得した。 ②「マインドフルネスの練習は手軽にできる」ということ。呼吸の長さや方法を気にしていましたが、それ自体が判断、評価をしていることだと分かり、ハッとした。 ②今、この瞬間を大切に作る生き方。実践していこうと思う。
3	講座企画・運営ボランティアスタッフ養成講座 第一部 (全6回)	宇都宮市民大学や生涯学習センターなどにおいて、市民目線から現代の社会情勢を的確に捉え、必要とされる生涯学習講座の企画・運営を担う人材(Vスタッフ)を養成する講座	③一般社団法人とちぎ市民協働推進研究会 代表理事 廣瀬 隆人 ①②⑤⑥市職員ほか	①9/23 (水) ②9/30 (水) ③10/7 (水) ④10/14 (水) ⑤10/21 (水) ⑥10/28 (水)	(10) 40	・これまで週2回、全8回実施してきたが、受講者の負担軽減や新型コロナウイルス感染防止の観点から、週1回、全6回とした。効率的・効果的に運営でき、十分な知識や経験を得られる講座とすることができた。 ・第1部受講者7名中6名が第2部(実習)に進めたことから、Vスタッフの活動について理解を深め、興味・関心を持てる講座となったと思われる。	・講座の企画立案は、日々好奇心のアンテナを張っておく事が大切だと思った。 ・グループワークで活発な意見交換ができた。いろんな意見が聞けてよかった。 ・2つの学習課題の融合が大事だと分かったが、必要課題への参加を促すのは大変だと思った。
4	宮の朝活 第15弾 ～仕掛人たちの挑戦記 in宇都宮～ (全5回)	日頃、多忙な20～40代の働き盛り世代や大学生を対象に、早朝の時間帯を活用して魅力的な学習機会を提供する教養講座。前期は、様々なワークショップや体験を通じて、ファシリテーション力の向上を図るほか、受講者同士の交流も図る。	①大豆乃館 代表 大谷 洋二 ②きものHAUS 代表 荻原 貴則 ③石川畳店 代表 石川 敬一、石川 博美 ④有限会社高林堂 代表取締役社長 和氣 康匡 ⑤宇都宮動物園 代表取締役 荒井 賢治	①10/9 (金) ②10/16 (金) ③10/23 (金) ④10/30 (金) ⑤11/6 (金)	(30) 79	・新型コロナウイルスの影響により、前期を中止としたため、前・後期統合版として全5回で実施した。 ・本市出身の経営者である講師から、様々な体験談や自身の活動についての考え方、信念、取り組みなどについて話を聞き、受講者がこれまでの物の見方や考え方を振り返る良い機会となった。 ・感染症予防に留意しながらも、畳コースター作りや和菓子作りを体験できたことで、受講者の満足度が向上したと思われる。	・宇都宮を愛し、それぞれの分野で頑張っている方々の生の声を聞いて「贅沢な朝活だ!!」と感じました。 ・伝統のあるものや昔から続いているものも多く、新しく変えていくことはとても勇気ある決断であるが、どの回の方々もそのことを実際に行動して行っていることにとっても感銘を受けた。 ・知らないことだらけだったので、多くのことを学べた。
5	子どもたちに伝えたい体験活動 (全4回)	子どもの遊びの教育的意義を理解し、自然体験活動や工作、伝承遊びなどの技術の習得を目指す講座。学んだ成果を地域活動などで発揮し、活躍できる人材の育成を目的とする。	①宇都宮市ベエゴマ協会会長 宮のものづくり達人 坂井 楞山 ②ジュニアスポーツ指導員 山口 克明	①10/31 (土) ②11/7 (土) ③中止 ④中止	(20) 25	・各受講生が子どもたちの遊びの教育的意義について理解を深め、工作や運動遊びの技術、その指導方法を習得することができた。 ・第3回及び第4回は、子どもの家等の施設と連携し、実際に子どもたちに指導する実習を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。	①身近な物で楽しく物を作れることを知ったので、チャレンジしてみたいと思った。 ①簡単に短時間でできる工作を紹介していただき、ありがたかった。 ②子どものうちによく体を動かして、様々な体験をすることの大切さがよく分かった。 ②学童保育に生かせる内容だったので、実践しようと思う。

No.	講座名 (開講数)	概要	講師	開催日	〔定員〕 延べ受講者数	講座の評価	(参考) 受講者の感想等
6	地域未来塾学習支援モデル事業 「陽北中学校」 (全5回)	「魅力ある学校づくり地域協議会」による無料の学習支援「地域未来塾」の周知強化及び学習支援員登録者(大学生)による中学生への学習支援体験の場の創出を図るため、モデル的に実施するトピック講座	①宇都宮大学 学生5名 ②宇都宮大学 学生5名 ③宇都宮大学 学生7名 ④宇都宮大学 学生9名 ⑤宇都宮大学 学生7名	①11/2(月) ②11/6(金) ③11/9(月) ④11/10(火) ⑤11/12(木)	[30] 88	・新型コロナウイルス感染症対策として、学習支援員には参加2週間前から健康チェックを依頼し、当日の「健康チェック表」と「体調・行動確認票」の提出を参加条件とした。 ・3年生の三者懇談期間中に実施した。対象が3年生ということもあり、生徒からは発展的な問題の質問も多かったが、支援員同士が協力して支援する姿が見られた。	【中学生】 ・自分の知らない勉強法や、問題への取り組み方を知ることができた。 ・苦手な部分の分かり、理解して問題を解くことができた。 【大学生】(気をつけた点) ・答えだけでなく、答えに至るまでの考え方を丁寧に伝えられるように気をつけた。 ・中学生に寄り添う事を意識した。
7	外国人住民のこそだてひろば (全3回)	市内で実施している子育て講座等への参加が困難な外国籍等の保護者が参加できる環境を整え、同じ困難を抱える保護者の仲間づくりや情報交換の場を設けることで、子育ての孤立を防止し、外国人住民の家庭教育力向上を図る。	①国際交流協会 副理事長 山口 由紀子 宇都宮市保健師・保育士 ②宇都宮市家庭教育支援活動者 ③宇都宮大学国際学部 教授 佐々木 一隆	①12/5(土) ②1/30(土) →【中止】 ③2/27(土)	[30] 9	・講座の周知については、市国際交流協会等と連携しながら、Facebook等も活用して行ったが、申し込みは3組のみとなった。より効果的に対象者に届く周知の方法や、周知先を検討する必要がある。 ・新型コロナウイルスへの配慮から、開催回数が少なくなったことや、親同士・親子同士の交流の機会を十分に取ることができなかったことにより、目的とした「仲間づくり」には至らなかった。 ・参加者からは、大変好意的な感想をいただけたことから、講座開催の意義はあると思われる。	・日本の文化などを学ぶ機会が少ない私たちにとって、大変ありがたいイベントです。 ・子育てについて相談できたのは、心強かった。 ・とても多くの事を学びました。日本のことを理解するのは、教えてくれる人がいないと難しいので、また参加したいです。
8	《Vスタッフ企画》 福島原発から考える 私たちにもできる省エネ生活 (全1回)	東日本大震災から10年を迎え、今の福島第一原子力発電所の現状を知り、電力に頼らない生活術を学ぶ。	①帝京大学 名誉教授 鮑本 一裕	3/26(金)	[20]		
9	Vスタッフ フォローアップ 研修	地域で活動しているVスタッフを対象に、今後の講座企画・運営に資する学習機会を提供するフォローアップ研修。Vスタッフ同士の連携強化や情報の共有も目的とする。 (No.1, No.2, No3③, No.8と合同開催)	①宇都宮共和大学 子ども生活学部 教授 杉本 太平 ②文星芸術大学 マンガ専攻 教授 堀江 一郎 ③光琳寺 副住職 井上 広法 ④一般社団法人とちぎ市民協働推進研究会 代表理事 廣瀬 隆人 ⑤帝京大学 名誉教授 鮑本 一裕	①8/27(木) ②9/4(金) ③9/25(金) ④10/7(水) ⑤3/26(金)	[-] 19 [-] 3 [-] 6 [-] 5 [-]	・①著名な講師の体験に基づく深みある講話や、若い世代の興味関心に触れ、新たな講座企画に向けた活力に繋がった。 ・②③における多くの市民や医療従事者がボランティアとして活動されている話は、Vスタッフの活動と通じることもあり、ボランティア精神の高揚に繋がった。 ・④養成講座受講生とともに学ぶことで、Vスタッフとして必要な知識の再確認や、受講者同士の交流促進を図る機会となった。	・良いコミュニケーションの事例、アイデアをたくさんいただいた。 ・受講生の緊張を和らげるために、ノンバーバルサインを使ってみようと思った。 ・感情を豊かにする事は大切だと感じた。 ・絵とキャッチコピーの大切さを学んだ。 ・講座の進め方など勉強になりました。 ・若い受講者が多いのは夜間だからなのか、テーマによるのか参考に考えたい。 ・対面の重要性を再確認できた。 ・Vスタッフの活動が地域に貢献しているのだと知った。新たな気持ちでがんばりたい。

## 令和2年度 放課後子ども教室事業の実施状況について

## 1 趣旨

国の「放課後子ども総合プラン」の宇都宮版として19年度から実施している「放課後子ども教室」事業の実施状況について報告するもの

## 2 令和元年度の実施状況

## (1) 実施校区数 54小学校区

宮っ子ステーション実施校区（年度の新規実施校区数）（R2.3.1現在）

19年度～	陽南・陽光（2）
20年度～	晃宝（1）
21年度～	今泉・富士見・西・御幸が原・峰・清原南（6）
22年度～	東・清原東・陽東・城東・西が岡・富屋・上戸祭・岡本西（8）
23年度～	田原西・西原・五代・石井・岡本北・明保・平石中央・田原・上河内東・雀宮中央・豊郷南・宝木（12）
24年度～	新田・豊郷北・豊郷中央・白沢・横川東・横川中央・篠井・御幸・雀宮東・姿川中央・雀宮南・桜・国本中央・横川西（14）
25年度～	城山東・瑞徳台・緑が丘・中央（4）
26年度～	上河内中央・宮の原・海道（3）
28年度～	築瀬・岡本（2）
30年度～	城山中央（1）
R元年度～	細谷（1）
R2年度～	戸祭（1）

## (2) 各小学校区の実施状況（別紙参照）

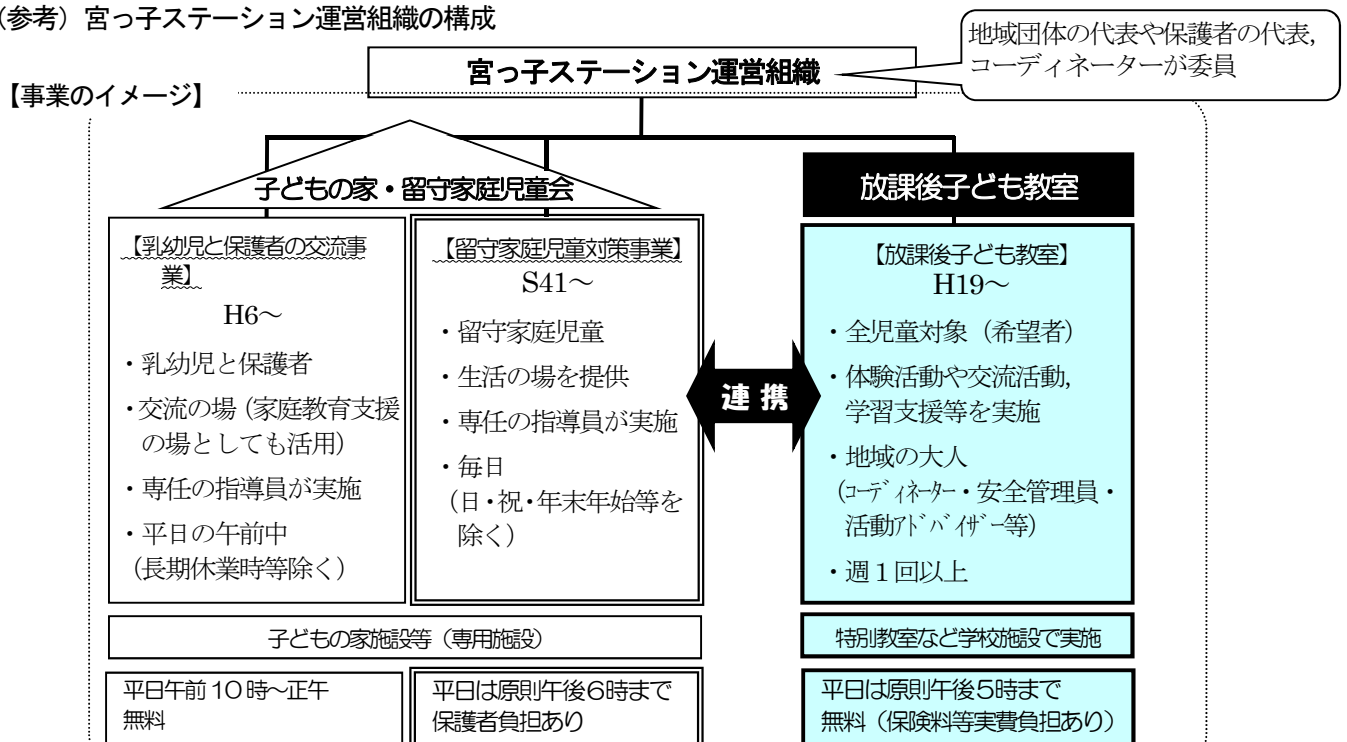
## (3) 事業実施における成果

- 活動への参加を通して、児童の放課後の過ごし方が充実できた。
- 異年齢の児童や大人との関わりを通して、児童が社会性や生活習慣を習得することができた。
- 宿題や自主学習などの活動を通して、児童の学習習慣の定着を図ることができた。
- 地域の大人や大学生・中高生の参加・協力・交流を通して、地域コミュニティの活性化と地域ぐるみでの子育て意識の醸成を図ることができた。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、安全に活動が実施できた。 など

## (4) 課題等

- 活動に参加・協力してもらえらる人材の確保（コーディネーター、活動アドバイザー、安全管理員など）
- 新設校を含む全小学校区での早期立ち上げに向けた地域の理解と協力
- 事業内容の充実（活動メニューの多様化、実施回数の増加 など）
- 新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえたか活動メニューの見直し

（参考）宮っ子ステーション運営組織の構成



※運営組織は地域の代表10名以上、保護者の代表5名以上で構成



令和2年度「放課後子ども教室」実施状況（令和2年4月1日現在）

別紙

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、主な内容および週当たり実施回数が実際と異なる場合があります。

実施校区	陽南小			陽光小			晃宝小			今泉小			富士見小			
名称	正式名称	陽南宮っ子ステーション			陽光宮っ子ステーション			晃宝宮っ子ステーション			今泉宮っ子ステーション			富士見宮っ子ステーション		
	愛称	よ〜なん☆きつずべーす			おひさまクラブ			ピノキオ教室			今泉わくわくステーション			—		
開始時期	平成19年7月			平成19年10月			平成20年6月			平成21年6月			平成21年7月			
主な活動拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会議室・児童会室</li> <li>体育館・校庭</li> <li>音楽室</li> <li>家庭科室</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ランチルーム・第2音楽室</li> <li>校庭・体育館</li> <li>家庭科室</li> <li>プール</li> <li>図工室</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>多目的室</li> <li>農園</li> <li>校庭・体育館</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館</li> <li>校庭</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館</li> <li>校庭</li> </ul>			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>県総合グランド飛び込み用プール</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>国本地区市民センター</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>今泉地域コミセン</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>富士見地域コミセン</li> </ul>			
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりや生活体験</li> <li>百人一首</li> <li>お茶教室</li> <li>バドミントン、サッカーほかスポーツ</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくり、手芸教室</li> <li>生活体験</li> <li>バレーボール、野球、サッカー、グランドゴルフ、タグラグビー、バスケットボール、剣道</li> <li>フラダンスほかダンス</li> <li>手話</li> <li>将棋</li> <li>英語教室</li> <li>囲碁、空手</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>昔遊び</li> <li>グランドゴルフ</li> <li>ものづくりや生活体験</li> <li>書写</li> <li>ドッチビー</li> <li>卓球、バドミントン</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりや生活体験</li> <li>英会話</li> <li>面白実験</li> <li>グラウンドゴルフ</li> <li>おやつ作り</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ドッジボール、ユニホック、ネオホッケー</li> <li>ものづくりや生活体験</li> <li>将棋</li> <li>民話語り</li> <li>百人一首</li> </ul>			
							※事業開始前に宿題タイムあり			※宿題タイムあり			※終了後に各自宿題を行う			
事業立ち上げ	地域まちづくり組織を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会の部会			魅力ある学校づくり地域協議会の部会			地域まちづくり組織を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会（地域まちづくり協議会含む）を中心に各種団体			
コーディネーター	安全管理員			魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター			魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター			魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター			PTA関係者			
児童数	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	
	70	443	16%	218	327	67%	191	473	40%	236	618	38%	83	721	12%	
	1年生	20	62	32%	30	46	65%	53	75	71%	58	106	55%	16	117	14%
	2年生	20	71	28%	44	53	83%	56	87	64%	71	92	77%	20	120	17%
	3年生	15	79	19%	40	55	73%	33	87	38%	63	99	64%	20	106	19%
	4年生	5	68	7%	38	52	73%	27	79	34%	29	110	26%	16	122	13%
	5年生	5	78	6%	40	69	58%	9	69	13%	13	107	12%	5	135	4%
	6年生	5	85	6%	26	52	50%	13	76	17%	2	104	2%	6	121	5%
週あたり実施回数	1回 (月曜日または金曜日)			5回 (月～金曜日)			3回 (月水金曜日)			3～4回 (主に月・水・金・土曜日)			1回 (主に金曜日)			

実施校区	西小			御幸が原小			峰小			清原南小			東小			
名称	正式名称	西宮っ子ステーション			御幸が原宮っ子ステーション			峰宮っ子ステーション			清原南宮っ子ステーション			東宮っ子ステーション		
	愛称	にじい教室			キラキラ			峰の寺子屋			清南げんきつず			とうこうキッズクラブ		
開始時期	平成21年7月			平成21年10月			平成22年1月			平成22年1月			平成22年4月			
主な活動拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館</li> <li>第2音楽室</li> <li>にこにこ館</li> <li>ランチルーム</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>学習室</li> <li>図工室</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室</li> <li>校庭</li> <li>体育館</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽室・生活科室</li> <li>家庭科室・理科室</li> <li>校庭・体育館</li> <li>ランチルーム・多目的室</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>校庭</li> <li>体育館</li> <li>プール</li> </ul>			
							<ul style="list-style-type: none"> <li>峰地区コミセン</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>東地域コミセン</li> </ul>			
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネオホッケー、ニューススポーツ</li> <li>琴教室</li> <li>パソコン教室</li> <li>デコ工作</li> <li>生け花教室</li> <li>ペーゴマ遊び</li> <li>料理教室</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>工作</li> <li>楽しい理科</li> <li>琴、お茶体験</li> <li>スポーツ</li> <li>お楽しみ会</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>自学自習</li> <li>工作教室</li> <li>スポーツ教室</li> <li>そろばん教室</li> <li>自然体験</li> <li>(田んぼへ行こう等)</li> <li>理科実験、生活体験</li> <li>おこと教室</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>生活体験</li> <li>工作教室</li> <li>昔遊び</li> <li>読書</li> <li>清原ミュージックフェスティバル参加</li> <li>お泊り会</li> <li>敬老会で演奏</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>生活体験</li> <li>工作教室</li> <li>昔遊び</li> <li>マジック教室</li> <li>スポーツデリバリー</li> <li>お茶</li> <li>水泳</li> </ul>			
	※中高生ボランティアの支援あり						※前半は宿題タイム			※前半は宿題タイム						
事業立ち上げ	PTA関係者を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			
コーディネーター	PTA関係者			魅力ある学校づくり地域協議会 運営委員			魅力ある学校づくり地域協議会 会長			魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター						
児童数	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	
	101	167	60%	181	421	43%	226	445	51%	232	363	64%	73	198	37%	
	1年生	30	30	100%	29	69	42%	50	56	89%	30	45	67%	10	32	31%
	2年生	26	31	84%	37	56	66%	54	82	66%	49	64	77%	25	34	74%
	3年生	14	20	70%	34	64	53%	51	75	68%	50	60	83%	11	27	41%
	4年生	12	27	44%	34	70	49%	31	77	40%	52	66	79%	10	39	26%
	5年生	14	33	42%	30	69	43%	27	82	33%	34	76	45%	5	32	16%
	6年生	5	26	19%	17	93	18%	13	73	18%	17	52	33%	12	34	35%
週あたり実施回数	1～2回 (月・火・木・金曜日)			2回 (月・水曜日)			4回 (月・火・金・土曜日)			5回 (月～金曜日)			2回 (水・金曜日)			

令和2年度「放課後子ども教室」実施状況（令和2年4月1日現在）

別紙

実施校区		清原東小	城東小	陽東小	西が岡小	上戸祭小
名称	正式名称	清原東宮っ子ステーション	城東宮っ子ステーション	陽東宮っ子ステーション	西が岡宮っ子ステーション	上戸祭宮っ子ステーション
	愛称	—	—	ポパイ	—	上戸のたまご
開始時期		平成22年6月	平成22年7月	平成22年7月	平成22年9月	平成22年9月
主な活動拠点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的室</li> <li>・校庭</li> <li>・図書室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科室</li> <li>・図工室</li> <li>・図書室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館ミーティングルーム</li> <li>・校庭</li> <li>・体育館</li> <li>・家庭科室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域開放室</li> <li>・校庭・体育館</li> <li>・農園・音楽室</li> <li>・家庭科室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大ミーティングルーム</li> <li>・校庭・体育館</li> <li>・家庭科室・図工室</li> <li>・調理室</li> <li>・北生涯学習センター</li> </ul>
主な内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題などの学習</li> <li>・外遊び</li> <li>・工作教室</li> <li>・ダンス教室</li> </ul> ※学習支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工作教室</li> <li>・学習支援</li> </ul> ※学習支援を実施（主に水曜日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バトボトルロケット、ジャイロ、スライム、工作教室</li> <li>・昔遊び、ペエゴマ</li> <li>・ユニホック、ベタンク、ドッチビー、フットサル</li> <li>・お菓子づくり</li> <li>・百人一首、指編み</li> <li>・プログラミング教室</li> <li>・おはやし教室</li> </ul> ※活動前に学習タイムあり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工作教室、手芸（季節に応じた作品づくり）</li> <li>・昔遊び</li> <li>・染色</li> <li>・スポーツ</li> <li>・調理教室</li> <li>・農業（野菜づくり）体験</li> <li>・ハイキング</li> <li>・チャレンジランキング</li> <li>・かかし作り</li> </ul>	工作教室、料理教室、フラダンス、和太鼓、ダンス、囲碁。百人一首、茶道、ネオホッケー、ソフトバレーボール、ロボット教室、室内ゲーム、テニス、映画鑑賞会、体育館であそぼう、おたのしみ会、たこあげ大会、ドッジボール、読み聞かせ、秋休みチャレンジ企画
事業立ち上げ		魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体
コーディネーター			元PTA役員	事業コーディネーター	魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター	元魅力ある学校づくり地域協議会地域コーディネーター
児童数		登録数 全校数 利用率	登録数 全校数 利用率	登録数 全校数 利用率	登録数 全校数 利用率	登録数 全校数 利用率
		43 349 12%	139 442 31%	209 456 46%	138 358 39%	203 460 44%
1年生		14 60 23%	22 71 31%	50 75 67%	38 64 59%	55 88 63%
2年生		12 60 20%	37 74 50%	54 77 70%	28 51 55%	47 80 59%
3年生		5 52 10%	24 79 30%	46 72 64%	24 69 35%	43 74 58%
4年生		6 43 14%	24 72 33%	29 71 41%	21 60 35%	20 67 30%
5年生		2 73 3%	24 70 34%	25 75 33%	14 46 30%	30 86 35%
6年生		4 61 7%	8 76 11%	5 86 6%	13 68 19%	8 65 12%
週あたり実施回数		1回 (月曜日)	2回 (月・水曜日)	2回 (水・金曜日)	2回 (月・水・金曜日)	4～5回 (日・月・火・水・金・土曜日)

実施校区		富屋小	岡本西小	田原西小	西原小	石井小
名称	正式名称	富屋宮っ子ステーション	岡本西宮っ子ステーション	田原西宮っ子ステーション	西原宮っ子ステーション	石井宮っ子ステーション
	愛称	にこにこ教室	おかにしみやっこ	田西っ子クラブ	西原こどもくらぶ	あおぞらペンギンクラブ
開始時期		平成22年9月	平成22年9月	平成23年4月	平成23年5月	平成23年5月
主な活動拠点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館多目的室</li> <li>・体育館</li> <li>・農園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図工室・家庭科室</li> <li>・体育館・校庭</li> <li>・菜園</li> <li>・ゆうすい公園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館</li> <li>・ミーティングルーム</li> <li>・ランチルーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランチルーム</li> <li>・体育館</li> <li>・校庭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館・校庭</li> <li>・学習室・家庭科室</li> <li>・ランチルーム</li> <li>・プール</li> </ul>
主な内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験</li> <li>・サッカー等のスポーツ</li> <li>・昔遊び</li> <li>・料理教室</li> <li>・工作教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菜園</li> <li>・ドッチボール、バトミントン、バレーボール、卓球</li> <li>・生活体験</li> <li>・料理教室</li> <li>・工作教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験</li> <li>・昔遊び</li> <li>・スポーツ体験</li> <li>・料理教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験</li> <li>・工作教室</li> <li>・昔遊び</li> <li>・スポーツ体験</li> <li>・お菓子づくり</li> <li>・自由あそび</li> </ul> ※前半は宿題タイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群れ遊び</li> <li>・生活体験</li> <li>・ベタンク</li> <li>・自然体験</li> <li>・親子活動</li> <li>・工作教室</li> <li>・カルチャー教室</li> </ul>
事業立ち上げ		魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体
コーディネーター			魅力ある学校づくり 地域協議会役員	魅力ある学校づくり 地域協議会の委員		
児童数		登録数 全校数 利用率	登録数 全校数 利用率	登録数 全校数 利用率	登録数 全校数 利用率	登録数 全校数 利用率
		83 187 44%	140 551 25%	70 204 34%	120 280 43%	234 690 34%
1年生		15 23 65%	0 95 0%	10 26 38%	20 42 48%	60 129 47%
2年生		17 26 65%	0 92 0%	10 20 50%	30 46 65%	65 114 57%
3年生		20 33 61%	54 94 57%	20 37 54%	20 41 49%	53 120 44%
4年生		14 25 56%	41 101 41%	20 39 51%	30 64 47%	30 111 27%
5年生		8 36 22%	33 83 40%	5 42 12%	20 46 43%	7 107 7%
6年生		9 44 20%	12 86 14%	5 40 13%	0 41 0%	19 109 17%
週あたり実施回数		2回 (月・水曜日)	1～2回 (月曜日、不定期土曜日)	1～2回 (火・水曜日)	1回 (水曜日)	4回 (月・水・木・金曜日)

令和2年度「放課後子ども教室」実施状況（令和2年4月1日現在）

別紙

実施校区		明保小	五代小	田原小	岡本北小	平石中央										
名称	正式名称	明保宮っ子ステーション	五代宮っ子ステーション	田原宮っ子ステーション	岡本北宮っ子ステーション	平石中央宮っ子ステーション										
	愛称	—	たのしみクラブ	くれよんきつず	北っ子教室	りんごの木										
開始時期		平成23年6月	平成23年5月	平成23年7月	平成23年6月	平成23年7月										
主な活動拠点		・地域開放室 ・体育館 ・校庭 ・中庭	・第2音楽室 ・体育館 ・校庭 ・図工室  ・五代若松原コミュニティセンター ・ふれあいセンター	・児童会室・家庭科室 ・音楽室・多目的ルーム ・体育館 ・図工室・中庭	・児童会室 ・体育館・校庭 ・図工室・理科室 ・音楽室・家庭科室	・ほほえみコーナー										
主な内容		・自然体験 ・スポーツ ・集団遊び ・工作教室 ・日本文化体験	・工作教室 ・生活体験 ・スポーツ体験 ・英会話 ・将棋	・音楽教室 ・スポーツ ・漢字検定 ・手工芸 ・書道 ・茶道 ・園芸	・昔遊び ・自然体験 ・スポーツ ・理科教室 ・音楽教室 ・工作教室 ・英語教室	・工作教室 ・読み聞かせ ・スポーツ(ドッジビー・なわとび) ・オセロ・トランプ・将棋 ・りんご屋さん(お店屋さん)										
事業立ち上げ		魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体										
コーディネーター		魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター	元事業コーディネーター	魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター	魅力ある学校づくり地域協議会 地域協議会役員	魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター										
児童数	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	
	180	580	31%	151	647	23%	116	191	61%	150	366	41%	37	59	63%	
	1年生	40	108	37%	38	102	37%	14	18	78%	30	67	45%	7	7	100%
	2年生	40	94	43%	37	104	36%	37	42	88%	32	69	46%	11	13	85%
	3年生	40	97	41%	36	102	35%	17	28	61%	33	56	59%	3	5	60%
	4年生	20	92	22%	20	125	16%	25	35	71%	28	61	46%	6	12	50%
	5年生	20	97	21%	13	106	12%	11	28	39%	15	53	28%	6	11	55%
6年生	20	92	22%	7	108	6%	12	40	30%	12	60	20%	4	11	36%	
週あたり実施回数		1～2回 (月・水曜日)	3～4回 (月～金曜日)	3回 (火・水・木曜日)	3回 (月・水・金曜日)	1回 (金曜日)										

実施校区		上河内東小	雀宮中央小	豊郷南小	宝木小	新田小										
名称	正式名称	上河内東宮っ子ステーション	雀宮中央宮っ子ステーション	豊郷南宮っ子ステーション	宝木宮っ子ステーション	新田宮っ子ステーション										
	愛称	ゆずっこ55	ひまわり	とよなんクラブ	—	しんでんキッズ										
開始時期		平成23年7月	平成23年9月	平成23年10月	平成23年12月	平成24年5月										
主な活動拠点		・体育館・校庭 ・体育館ミーティングルーム  ・上河内体育館	・学習室 ・校庭・体育館 ・家庭科室・プール	・生活科室(放課後子ども教室) ・校庭・音楽室 ・家庭科室・理科室 ・図工室・プール	・地域交流室	・体育館・校庭 ・理科室・家庭科室 ・プール・図書室 ・音楽室・図工室 ・第二音楽室										
主な内容		・サッカー、バスケット、ポートボール、なわとび、ドッジボール ・かるた作り ・絵の教室 ・料理教室 ・スポーツ体験 ・切り絵、俳句 ・スライム作り、理科の教室 ・ロボットと遊ぶ	・群れ遊び ・スポーツ体験 ・昔遊び ・お菓子づくり ・工作教室  ※前半は宿題タイム	・群れ遊び ・生活体験 ・スポーツ体験 ・ハイキング ・空手道 ・座禅体験 ・サイクリング	・生活体験 ・文化体験 ・食育 ・料理教室 ・茶道 ・カルタ遊び ・リサイクル工作	・群れ遊び ・工作教室 ・手品 ・お菓子づくり ・スポーツ体験 ・親子活動										
事業立ち上げ		上河内まちづくり協議会役員	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり 地域協議会を中心に各種団体										
コーディネーター		栃木協働推進員	元PTA会長	魅力ある学校づくり 地域協議会会長	魅力ある学校づくり 地域協議会役員	魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター										
児童数	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	
	78	129	60%	35	521	7%	210	605	35%	146	656	22%	205	555	37%	
	1年生	11	22	50%	10	81	12%	60	105	57%	33	113	29%	55	89	62%
	2年生	13	14	93%	10	94	11%	50	100	50%	28	114	25%	56	81	69%
	3年生	24	28	86%	5	87	6%	40	87	46%	35	106	33%	51	94	54%
	4年生	15	24	63%	5	83	6%	30	106	28%	20	104	19%	28	93	30%
	5年生	10	20	50%	3	94	3%	20	101	20%	20	113	18%	13	91	14%
6年生	5	21	24%	2	82	2%	10	106	9%	10	106	9%	2	107	2%	
週あたり実施回数		5回 (月・水・木・金・土曜日)	1回 (水曜日)	2回 (月・水曜日)	1～2回 (水・木曜日)	1～2回 (月・水曜日)										



令和2年度「放課後子ども教室」実施状況（令和2年4月1日現在）

別紙

実施校区		白沢小	豊郷北小	横川東小	豊郷中央小	横川中央小											
名称	正式名称	白沢宮っ子ステーション	豊郷北宮っ子ステーション	横川東宮っ子ステーション	豊郷中央宮っ子ステーション	横川中央宮っ子ステーション											
	愛称	白沢っ子教室	ごえもん	はびねずクラブ	バンブーキッズ	キッズクラブ											
開始時期		平成24年6月	平成24年5月	平成24年6月	平成24年5月	平成24年6月											
主な活動拠点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館ミーティングルーム</li> <li>・体育館・校庭</li> <li>・ランチルーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きのこの森</li> <li>・わんぱく広場</li> <li>・多目的ルーム、ランチルーム</li> <li>・体育館、校庭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的室</li> <li>・校庭・体育館</li> <li>・家庭科室・理科室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図工室</li> <li>・体育館</li> <li>・旧公民館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的ホール</li> <li>・体育館</li> <li>・グラウンド</li> </ul>											
主な内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・群れ遊び</li> <li>・文化活動（灯籠づくり）</li> <li>・郡読</li> <li>・科学実験教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験</li> <li>・クラフト教室</li> <li>・3B体操</li> <li>・エアロビクス</li> <li>・わらべ歌</li> <li>・クッキング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工作教室</li> <li>・生活体験</li> <li>・料理教室</li> <li>・ウォークラリー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工作教室</li> <li>・漢字検定</li> <li>・スラックライン</li> <li>・空手道</li> <li>・料理教室</li> <li>・浴衣の着装、マナー教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>・工作教室</li> <li>・グラウンドゴルフ</li> <li>・輪投げ</li> <li>・ペーゴマ</li> <li>・絵本づくり</li> </ul>											
事業立ち上げ		河内地区婦人防火クラブ副会長	魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体	PTAを中心に各種団体	魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体											
コーディネーター		元PTA副会長	魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター	PTA関係者	魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター	魅力ある学校づくり地域協議会役員											
児童数		登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	
		161	266	61%	97	265	37%	220	805	27%	284	791	36%	143	528	27%	
		1年生	27	39	69%	0	48	0%	60	133	45%	60	141	43%	50	86	58%
		2年生	31	39	79%	25	42	60%	50	129	39%	75	116	65%	41	95	43%
		3年生	23	40	58%	31	44	70%	45	127	35%	58	137	42%	25	78	32%
		4年生	32	53	60%	21	42	50%	40	140	29%	41	134	31%	20	93	22%
		5年生	22	47	47%	17	46	37%	15	124	12%	27	129	21%	3	93	3%
		6年生	26	48	54%	3	43	7%	10	152	7%	23	134	17%	4	83	5%
週あたり実施回数		1～2回 (水または月曜日)	4回 (月・火・木・金曜日)	1回 (月曜日)	4回 (月・水・木・金曜日)	1回 (水曜日)											

実施校区		篠井小	御幸小	雀宮東小	姿川中央小	雀宮南小											
名称	正式名称	篠井宮っ子ステーション	御幸宮っ子ステーション	雀宮東宮っ子ステーション	姿川中央宮っ子ステーション	雀宮南宮っ子ステーション											
	愛称	てんとう虫キッズ	みゆきっ子クラブ	—	おにぎりクラブ	—											
開始時期		平成24年6月	平成24年7月	平成24年9月	平成24年9月	平成24年10月											
主な活動拠点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭</li> <li>・体育館</li> <li>・家庭科室</li> <li>・礼法室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科室</li> <li>・ランチルーム</li> <li>・体育館</li> <li>・校庭</li> <li>・第2音楽室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図工室</li> <li>・体育館</li> <li>・校庭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的ルーム</li> <li>・校庭</li> <li>・体育館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域開放室</li> <li>・家庭科室</li> <li>・校庭</li> <li>・体育館</li> </ul>											
主な内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・工作教室</li> <li>・スポーツ体験</li> <li>・料理教室</li> <li>・ペーゴマ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みゆき塾(学習支援)</li> <li>・工作教室(学校を飾ろう)</li> <li>・お点前体験</li> <li>・16ミリ映画鑑賞</li> <li>・出前授業(企業)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔遊び・かるた・すごろく</li> <li>・工作教室</li> <li>・卓球</li> <li>・農園</li> <li>・輪投げ</li> <li>・バルーンアート</li> <li>・読み聞かせ</li> <li>・語りべ</li> <li>・マジック教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ体験</li> <li>・群れ遊び</li> <li>・工作教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将棋教室</li> <li>・工作教室</li> <li>・軽スポーツ</li> <li>・料理教室</li> </ul>											
事業立ち上げ		子どもの家を中心に各種団体	子どもの家を中心に各種団体	魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体	魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体											
コーディネーター		育成会関係者		元魅力ある学校づくり地域協議会委員	魅力ある学校づくり地域協議会委員												
児童数		登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	
		29	98	30%	120	414	29%	75	272	28%	156	271	58%	72	398	18%	
		1年生	3	10	30%	26	67	39%	15	29	52%	38	38	100%	30	69	43%
		2年生	4	8	50%	26	60	43%	20	39	51%	25	47	53%	20	65	31%
		3年生	6	16	38%	31	57	54%	20	55	36%	25	43	58%	10	68	15%
		4年生	6	19	32%	24	71	34%	10	47	21%	29	44	66%	5	69	7%
		5年生	9	19	47%	11	79	14%	10	47	21%	24	53	45%	5	65	8%
		6年生	1	26	4%	2	80	3%	0	55	0%	15	46	33%	2	62	3%
週あたり実施回数		2回 (水・金曜日)	2～3回 (月・水・金曜日)	1回 (水曜日)	1～2回 (月・水曜日)	3回 (月・火・水曜日)											

令和2年度「放課後子ども教室」実施状況（令和2年4月1日現在）

別紙

実施校区		桜小			国本中央小			横川西小			城山東小			瑞穂台小			
名称	正式名称	桜宮っ子ステーション			国本中央宮っ子ステーション			横川西宮っ子ステーション			城山東宮っ子ステーション			瑞穂台宮っ子ステーション			
	愛称	-			たけのこクラブ			-			ドリームクラブ			-			
開始時期		平成24年10月			平成24年10月			平成25年1月			平成25年6月			平成25年6月			
主な活動拠点		・地域活動室 ・体育館			・体育館 ・ミーティングルーム ・図工室			・校庭 ・第2理科室			・体育館2階 ・体育館 ・プール ・家庭科室 ・校庭			・図工室 ・体育館 ・教室			
					国本地区市民センター												
主な内容		・読み聞かせ ・軽スポーツ ・プール活動 ※宿題などの学習			・工作教室 ・昔遊び ・軽スポーツ ・ふるさと探検 ※宿題などの学習			・もの作り ・グランドゴルフ ・英語 ・わなげ ・将棋 ・パステルアート ・ちぎり絵			・工作教室 ・昔遊び ・軽スポーツ ・水泳 ・料理教室 ・生け花教室 ・年賀状 ※終了後に各自宿題を行う			・工作教室 ・ドッジボール ・ボードゲーム ・スクラップブック ※宿題などの学習			
事業立ち上げ		魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			
コーディネーター		自治会選出						元五代宮っ子ステーション事業コーディネーター			魅力ある学校づくり地域協議会委員			PTAより選出（学校長推薦）			
児童数		登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	
		112	290	39%	152	320	48%	88	535	16%	44	148	30%	321	696	46%	
		1年生	15	34	44%	40	50	80%	20	87	23%	0	20	0%	60	105	57%
		2年生	23	49	47%	25	45	56%	19	94	20%	13	21	62%	68	110	62%
		3年生	17	48	35%	35	59	59%	22	90	24%	9	23	39%	87	98	89%
		4年生	32	64	50%	35	51	69%	12	90	13%	9	26	35%	68	136	50%
		5年生	14	49	29%	10	52	19%	11	84	13%	10	36	28%	28	125	22%
		6年生	11	46	24%	7	63	11%	4	90	4%	3	22	14%	10	122	8%
週あたり実施回数		2回 (月・水曜日)			4回 (月・水・木・金曜日)			1～3回 (月・水・金曜日)			1回 (水曜日)			4回 (月～金曜日)			

実施校区		緑が丘小			中央小			上河内中央小(R2休止)			宮の原小			海道小			
名称	正式名称	緑が丘宮っ子ステーション			中央宮っ子ステーション			上河内中央宮っ子ステーション			宮の原宮っ子ステーション			海道宮っ子ステーション			
	愛称	-			-			わくわく教室			ニコPくらぶ			海道キッズ			
開始時期		平成25年7月			平成25年8月			平成26年5月			平成26年6月			平成26年6月			
主な活動拠点		・なかよし広場 ・体育館			・家庭科室 ・体育館 ・音楽室 ・プール			・会議室(体育館2階) ・体育館 ・校庭			・地域開放室 ・体育館			・児童会室 ・体育館 ・校庭 ・オープンスペース			
		緑が丘コミセン			中央コミュニティセンター会議室						宮の原コミセン						
主な内容		・将棋 ・工作教室 ・わなげ ・茶道 ・料理 ・ドッジビー ・スポーツチャンバラ ・囲碁			・紅茶部 ・料理 ・水泳 ・クラフト教室 ・軽スポーツ ・フラダンス ・ゴスペル ・花育			・工作教室 ・語りべ ・生け花教室 ・軽スポーツとゲーム ・おまんじゅう作り ・押し花を使ったカレンダー作り			・夏祭り、クリスマスイベント ・合唱、楽器体験 ・手芸 ・おやつ、そば打ち ・昔遊び ・英会話 ・フラダンス ・オカリナ、お囃子 ・空手 ・囲碁 ・和を楽しむ教室(着付、礼法)			・3B体操 ・エアロビクス ・グランドゴルフ ・絵画教室 ・工作教室 ・菜園 ・劇作り ・ひょうたん作り ・手芸 ・剣道			
事業立ち上げ		魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			魅力ある学校づくり地域協議会を中心に各種団体			
コーディネーター		魅力ある学校づくり地域協議会委員			-			元副校長（学校推薦）			元PTA			魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター			
児童数		登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	
		138	442	31%	76	189	40%	83	272	31%	226	320	71%	90	205	44%	
		1年生	30	58	52%	15	26	58%	0	45	0%	42	46	91%	20	34	59%
		2年生	30	76	39%	10	26	38%	32	55	58%	42	62	68%	17	33	52%
		3年生	33	61	54%	15	31	48%	28	49	57%	42	57	74%	19	32	59%
		4年生	32	83	39%	17	39	44%	16	46	35%	32	41	78%	16	29	55%
		5年生	10	90	11%	11	35	31%	5	41	12%	36	62	58%	9	32	28%
		6年生	3	74	4%	8	32	25%	2	36	6%	32	52	62%	9	45	20%
週あたり実施回数		4回 (月・火・木・金曜日)			概ね4回 (月・火・水・金・土曜日)			1回 (水曜日)			3～5回 (月～金曜日)			2回 (主に火・水・金曜日)			

令和2年度「放課後子ども教室」実施状況（令和2年4月1日現在）

別紙

実施校区		築瀬小(R2休止)	岡本小	城山中央小	細谷小	戸祭小										
名称	正式名称	築瀬宮っ子ステーション	岡本宮っ子ステーション	城山中央宮っ子ステーション	細谷宮っ子ステーション	戸祭宮っ子ステーション										
	愛称	—	—	くじら教室	スマイルほそや	とちの木										
開始時期		平成28年6月	平成28年10月	平成31年1月	令和元年6月	令和2年12月										
主な活動拠点		・教室 ・校庭 ・体育館	・多目的室 ・体育館	・ミーティングルーム	・教室	・戸祭コミセン										
主な内容		・英語教室 ・折紙 ・囲碁 ・リズムダンス	・工作 ・昔遊び ・囲碁, 将棋 ・剣道	・絵手紙 ・工作 ・学習活動	・園芸 ・工作 ・かけっこ教室 ・スポーツスタッキング	・工作 ・昔遊び										
事業立ち上げ		魅力ある学校づくり地域協議会 を中心に各種団体	魅力ある学校づくり地域協議会 を中心に各種団体	魅力ある学校づくり地域協議会 を中心に各種団体	学校を中心にPTA等団体	留守家庭児童会										
コーディネーター		魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター	魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター	元魅力ある学校づくり地域協議会 地域コーディネーター	魅力ある学校づくり地域協議会委員	地域関係者										
児童数		登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率	登録数	全校数	利用率
		0	498	0%	119	275	43%	91	231	39%	90	427	21%	90	665	14%
		1年生	84	0%	25	41	61%	20	28	71%	20	76	26%	20	106	19%
		2年生	79	0%	30	54	56%	25	35	71%	20	68	29%	20	107	19%
		3年生	86	0%	27	47	57%	13	47	28%	20	73	27%	20	100	20%
		4年生	79	0%	18	37	49%	15	36	42%	10	83	12%	10	113	9%
		5年生	87	0%	13	47	28%	10	37	27%	10	60	17%	10	106	9%
		6年生	83	0%	6	49	12%	8	48	17%	10	67	15%	10	133	8%
週あたり実施回数		1回 (月曜日)	1回 (月曜日)	1回 (月曜日)	2回 (月・水曜日)	2回 (月・水曜日)										

## 令和3年度宇都宮市立小・中学校の「土曜授業」実施予定日一覧

○各学校の実施日は予定であり、今後変更になる場合があります。

月	日	小学校名	中学校名
4	17		陽西中, 泉が丘中, 横川中, 姿川中, 宝木中, 上河内中, 河内中
	24		宮の原中
5	29	瑞穂野北小, 豊郷北小	
6	5	清原北小, 田原西小	
	12	富屋小, 姿川第二小	
	19	昭和小,	
	26	宝木小, 城東小	
7	3	中央小(5・6年生のみ), 田原小	
8	28		城山中
9	4	富士見小	
10	2		城山中
	16	東小, 雀宮東小	
	23	西小, 御幸が原小, 新田小	
	30	横川中央小	一条中, 瑞穂野中
11	6	石井小, 明保小	
	13	横川中央小, 国本西小	
	20		全市一斉実施日(中学校)
12	4	全市一斉実施日(小学校)	

下記の関係団体等には、市所管課を通じて実施予定日を周知いたします。

関係団体等	市所管課
地域まちづくり組織, 自治会連合会	みんなでまちづくり課
交通指導員連絡協議会	生活安心課
青少年育成市民会議	子ども未来課
公立保育園園長会, 民間保育園園長会	保育課
私立公立学校連絡会(私立中・高校, 宇大附属小・中学校)	教育企画課
P T A連合会, 子ども会連合会, 青少年指導員	生涯学習課
文化協会	文化課
体育協会, スポーツ少年団, スポーツ推進委員	スポーツ振興課

※ 栃木県幼稚園連合会及び栃木県体育協会につきましては、学校教育課より周知いたします。

